NECパーソナルコンピュータ
PC-9800シリーズ
Software library
NEC
MS-DOS™ 5.0
さあ始めようMS-DOS

Software library

MS-DOS™ 5.0

さあ始めようMS-DOS

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、(3)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

MS-DOSは、米国マイクロソフト社の登録商標です。

Copyright © 1991 NEC Corporation

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア)は、日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

日本電気株式会社の許可なく複製・改変等を行うことはできません。

AT1A1A

はじめに

MS-DOSは、お手持ちのコンピュータを活用するために欠かせないソフトウェアとなっています。しかし、MS-DOSとはいったいどんなソフトなのでしょう。ワープロやグラフィックツールなどの市販ソフトとちがい、その働きはわかりにくいものがありますね。

MS-DOS 5.0は、従来のMS-DOSをさらに親しみやすく、使いやすくしたものになっています。本書でMS-DOS 5.0の特徴を理解し、活用していただけることを願っています。

本書は、MS-DOSバージョン5.0を主にDOSシェルから操作する人のための入門マニュアルです。

MS-DOSバージョン5.0(以下MS-DOS 5.0)の特徴の一つとして、「DOSシェル」が添付されていることが挙げられます。DOSシェルは、ディスクに入っているファイルやコマンドを管理するためのプログラムです。DOSシェルから、ほとんどのMS-DOSの操作ができるようになっています。

■このマニュアルで何ができるか

本書は、MS-DOS 5.0をDOSシェルから使うためのマニュアルです。以前のバージョンのMS-DOSをお使いになったことがある方も、MS-DOS　5.0で初めてMS-DOSに触れる方も、DOSシェルからコマンドを実行したり、ファイルを管理したりしたりしながらMS-DOS 5.0を使いこなせるようになるまでを説明しています。

本書では、MS-DOSやコンピュータに関する基礎知識があることを前提にしていません。MS-DOSに関する経験がまったくない初心者の方も、安心してお読みください。

DOSシェルを使いこなせるようになれば、次は『ステップアップマニュアル』でコマンドをキーボードから入力しながら操作することも簡単にできるようになります。

DOSシェルくん

本書は、6つの章で構成されています。

・第1章「紹介！ DOSシェル」

この章は、DOSシェルについての概論です。DOSシェルの起動と終了のしかたに始まって、マウスの使い方、DOSシェルの画面の見方、メニュー操作のしかたまでを解説しています。

・第2章「プログラムを起動！」

この章は、DOSシェルからプログラムを起動したり、よく起動するプログラムを登録したりする方法を解説しています。

・第3章「ファイルを探すテクニック」

この章は、DOSシェルのもう一つの大きな機能であるファイル管理の方法を取り上げています。特定のドライブやディレクトリに入っているファイルの一覧を表示させたり、名前の一部がわかっているファイルを探したりする方法を解説しています。

・第4章「楽してファイルを整理する」

この章では、DOSシェル上でファイルを整理する方法を説明しています。1つまたは複数のファイルをコピーしたり、削除したり、名前を変更したりします。

・第5章「DOSシェルの進んだ使い方」

この章では、DOSシェルの少し進んだ使い方をまとめて取り上げています。複数のコマンドを同時に起動して切り替えて使う方法や、操作がわからなくなったときに便利に使える「オンラインヘルプ」の操作法、DOSシェルを好みの状態で起動する方法などを説明しています。DOSシェルからコマンドプロンプトを表示させる方法も説明しています。

・第6章「トラブルレスキュー隊」

ここでは、MS-DOS 5.0でDOSシェルからさまざまな操作をしているときに起きやすいトラブルと、その原因や解決法について説明しています。

■その他のマニュアル

また、「MS-DOS 5.0 基本機能セット」には本書の他に次のマニュアルがあります。

・『マニュアルの読み方』

MS-DOS 5.0 をお使いになる方の知識程度や使用目的によって、基本機能セット内のどの部分をどの順で読めばよいかを説明している小冊子です。必ず初めにお読みください。

・『インストールガイド』

MS-DOS 5.0 を、お使いのコンピュータの固定ディスクやフロッピィディスクに移して使える状態にする手順、新たに周辺機器を購入したときに必要な設定、アプリケーションプログラムを固定ディスクでお使いになるための準備などを説明したマニュアルです。

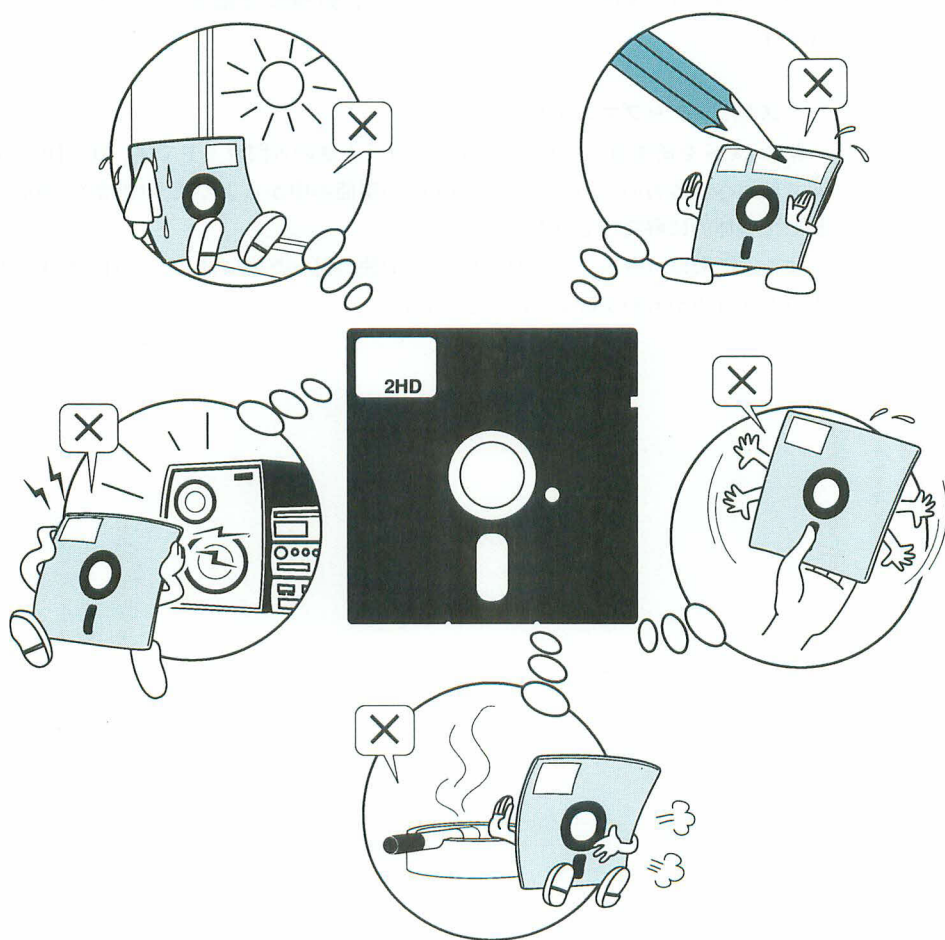
・『ステップアップマニュアル』

MS-DOS を従来通りにキーボードから使うときの入門ガイドです。MS-DOS を初めて使用される方のためには、MS-DOS の機能の中からよく使う(重要な)機能を選択して具体的に解説しています。

また、従来のバージョンの MS-DOS をお使いだった方には、この MS-DOS 5.0 がどうちがうのかもわかるようにしています。

・フロッピィディスク使用上の注意

磁気、熱、傷はフロッピィディスクの大敵

- 大出力のスピーカーは磁気を発生するので、ディスクを近づけないでください。
- ディスクをあつかうときは磁気ネックレスなどを身に付けないでください。
- 日の当たる場所、極端に高温となる場所にディスクを保管しないでください。
- ディスクの中身のプラスチックシートには手を触れないでください。
- ディスクにホコリやタバコの灰を落とさないでください。
- ボールペンなどペン先の硬いものでラベルに字を書かないでください。

ディスクドライブのランプ点灯中は取り出さない

フロッピィディスクドライブのランプが点灯しているときは、フロッピィディスクへの読み書きが行われています。ランプ点灯中はフロッピィディスクを抜いたり、パソコンの電源を切ったりしないでください。

フロッピィディスクのライトプロテクト

オリジナルのシステムディスクなど、大事なフロッピィディスクにはライトプロテクト(書き込み禁止)をしておきましょう。

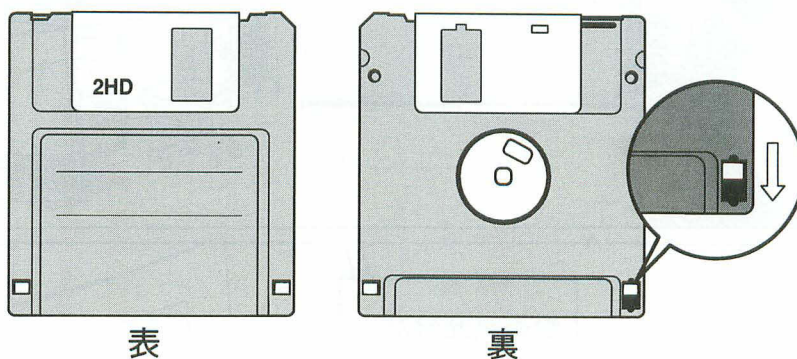
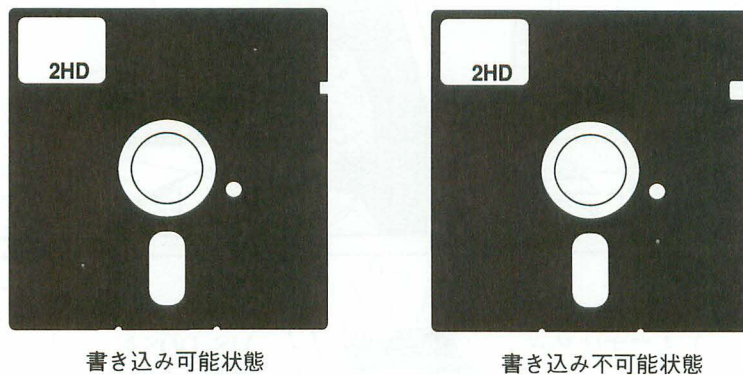
ライトプロテクトをしたフロッピィディスクは、データを読み込むことはできても、書き替えたり削除したりはできなくなりますから、中身を誤って消すなどの事故が防げます。

ライトプロテクトのしかた

3.5インチ

5インチ

書き込み可能状態

書き込み不可能状態

※データディスクなど、セーブ用のディスクにはライトプロテクトをしないでください。

RAMドライブ使用上の注意(98NOTEなど)

98NOTEのRAMドライブに保存した内容は、充電せずに長期間放置しておくと消えてしまいます。

・重要なソフトウェアやデータはフロッピィディスクに保存してください。

なぜ？ なに！
MS-DOS
あっれぇ？
やる気充分な
新入社員
パソコン歴０年
ピ
No system files
ピー
先輩！
ワープロが動かないんですけど…
ピ
それは
MS-DOSを
組み込んでないからよ
フラ〜
フラ
入社２年目
けっこう世話好き
パソコン歴１年半

ここに
「MS-DOSが
必要です」って
かいてある
でしょ
日本語ワードプロセッサ
日本の心
このソフトを使用するには
日本語MS-DOS Verx. x
以上が必要です。
ホントだ!!
これも…
これもだ!!
MS-DOSって
何ですか?
そうね
人間の言葉を
理解して
作業してくれる
ソフトで…
いろんな
小さいプログラムの
かたまりで
できてるの
小さい
プログラム
だけど…
文字を入力したり
画面にそれを表示したり
といった
基本的なプログラムよ
ABC
ABC
パコ
もともとMS-DOSは
プログラマーの
ためのものなの

MS-DOSを利用すれば
その部分を
作る必要がないの
そのぶん
良いプログラムが
作れるってわけ
文字表示から
プログラムしてたら
大変な作業に
なるわ

MS-DOS用に
作られたソフトは
たくさんあるから
それを利用しない
手はないわ

なんでそんな
プログラマーの
道具を
僕らが使わなきゃ
いけないんですか？

僕はやっぱり
ゲームだな
うん！

音楽がやりたい
人は音楽ソフト
絵を描きたい人は
グラフィック
ツールって
その人の目的に
あわせて使えるの

※インストール直後の状態とは異なります。

目　次

第１章
紹介！DOS シェル

はじめまして、DOS シェルです。

MS-DOS 5.0 に付属しているこのプログラムを使うと、メニューを選ぶだけの操作で、MS-DOS の持っている機能を活用することができます。操作にはマウスも使用でき、画面もぐっと親しみやすくなりました。

それではさっそく、DOS シェルを起動させて、その世界に触れてみましょう。

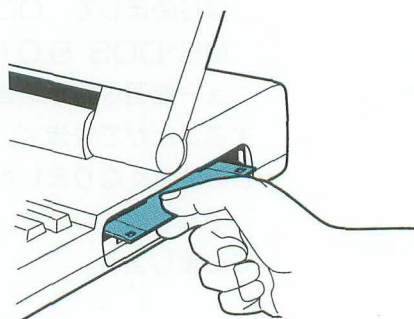
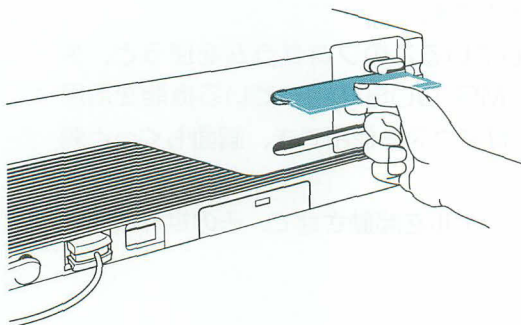
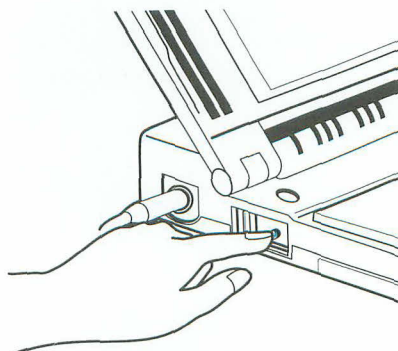
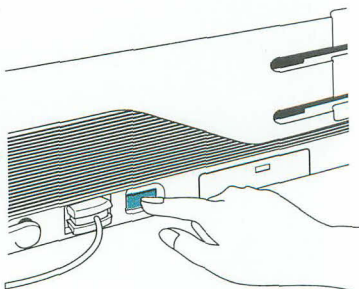
CHAPTER 1

CHAPTER 1

DOS シェルの起動と終了

DOS シェルは MS-DOS から起動するようになっています。MS-DOS のシステムを起動して、DOS シェルの画面を見てみましょう。

● フロッピィディスクからの起動

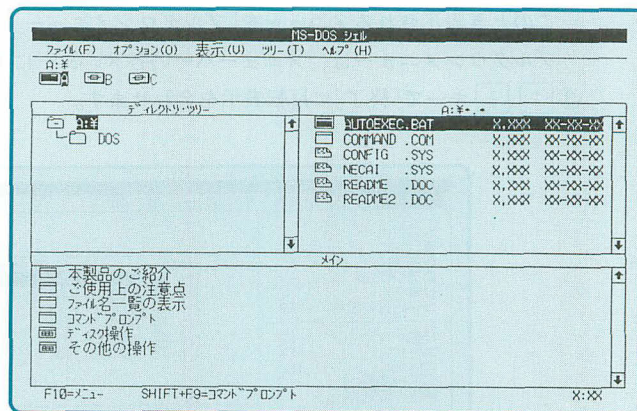
①周辺機器の電源を入れます。
②コンピュータ本体の電源を入れます。
③「運用ディスク #1」をドライブ1に入れます。
　運用ディスクを作成する方法は、別冊の『インストールガイド』を参照してください。

④本体のリセットスイッチを押します。
　そのまましばらく待つと、MS-DOS 画面が表示されます。
⑤「運用ディスク #2」をドライブに入れます。

⑥DOSSHELL ⏎ とキーボードから入力します。
DOSシェルの画面が表示されます。

ディスクの交換は、必ずDOSシェルが起動してから行ってください。
DOSシェルを起動したら、指示されたとき以外は、終了するまで「運用ディスク＃2」を抜かないでください。

● 固定ディスクからの起動

①固定ディスクとその他の周辺機器の電源を入れます。
②コンピュータ本体の電源を入れます。
このとき、フロッピィディスクドライブには何も入れないでください。
しばらく待つと、DOSシェルの画面が表示されます。

「固定ディスク起動メニュー」が表示された場合は、「MS-DOS 5.00」に反転表示を合わせて ⏎ キーを押してください。

DOSシェルを起動すると、画面は次のようになります。

DOSシェルを起動した画面。

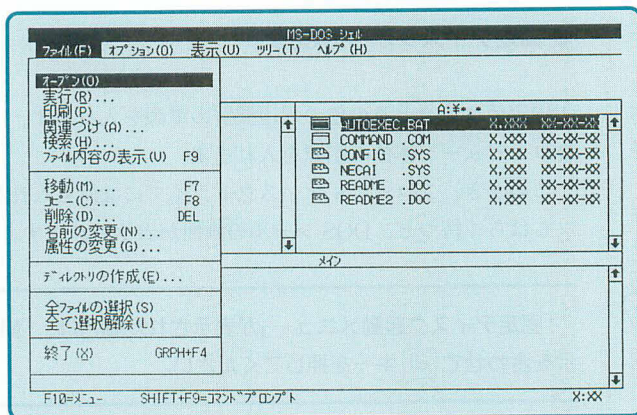
これからの説明は、固定ディスクから起動したときを想定して進めていきます。
フロッピィディスクから起動したときは、画面などが多少異なることがあります。

● DOS シェルの終了

あわせて DOS シェルの終了方法も覚えておきましょう。コンピュータでの仕事を終えるときは、DOS シェルを終了させてから電源を切るようにしてください。

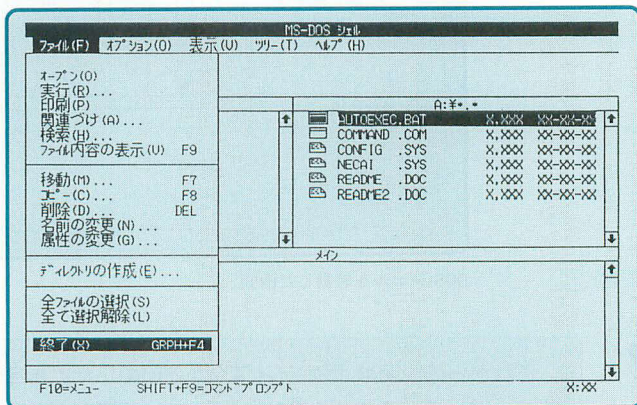
① GRPH キーまたは f･10 キーを押します。

画面左上の「ファイル」が反転します。

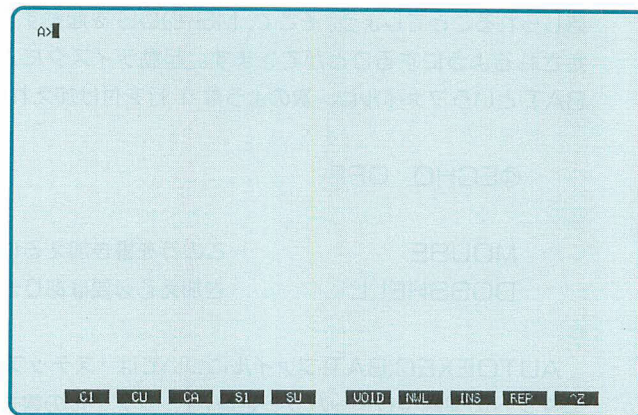
② ⏎ キーを押します。

反転しているのは、DOS シェルの[ファイル]メニュー。メニューの中ではこれが最初に選ばれる。

このとき表示されるメニューを「プルダウンメニュー」といいます。

プルダウンメニューは、メニューバーの各メニューに用意されています。

③ ↑ ↓ キーで「終了」に反転表示を合わせます。

GRPH キーを押しながら f･4 キーを押しても終了できる。

④ ⏎ キーを押します。

DOS シェルが終了します。

DOS シェルが終了すると、MS-DOS が次のコマンドを待つ画面になる。

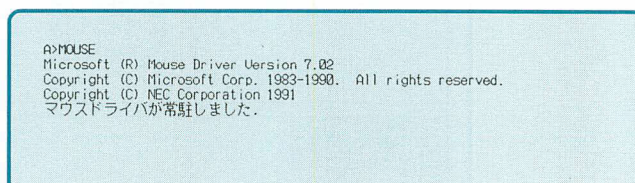
上は MS-DOS の画面です。DOS シェルが退場したので、黒子である MS-DOS が姿を現したというわけです。

● マウスを使えるようにする

DOS シェルはマウスを使って操作することができます。

DOS シェルを起動したとき、画面にマウスカーソルが表示されていない場合は、マウスを使うための設定をしておきましょう。

MS-DOS の画面が表示されているときに、「MOUSE」と入力して ⏎ キーを押します。

```
A>MOUSE
Microsoft (R) Mouse Driver Version 7.02
Copyright (C) Microsoft Corp. 1983-1990.  All rights reserved.
Copyright (C) NEC Corporation 1991
マウスドライバが常駐しました.
```

マウスを制御するソフトウェアが読み込まれて初めて、DOS シェルでマウスを使えるようになる。

マウスの設定は電源を切るまで有効です。電源を切って入れ直したときは、また設定をする必要があります。

・マウスの設定を自動的にすることもできる

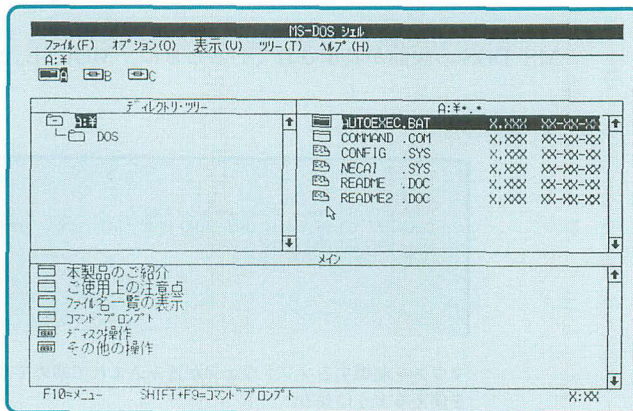
DOSシェルでつねにマウスを使う場合、毎回マウスの設定をするのはめんどうに感じられることでしょう。そこで、MS-DOSを起動するときにマウスが自動的に設定されるようにすることができます。起動ディスクに入っているAUTOEXEC.BATというファイルに、次のような1行を付け加えればよいのです。

```
@ECHO  OFF
  :
MOUSE            ←この行を書き加える(すでに記述されてあれば、書
DOSSHELL           き加える必要はありません)
```

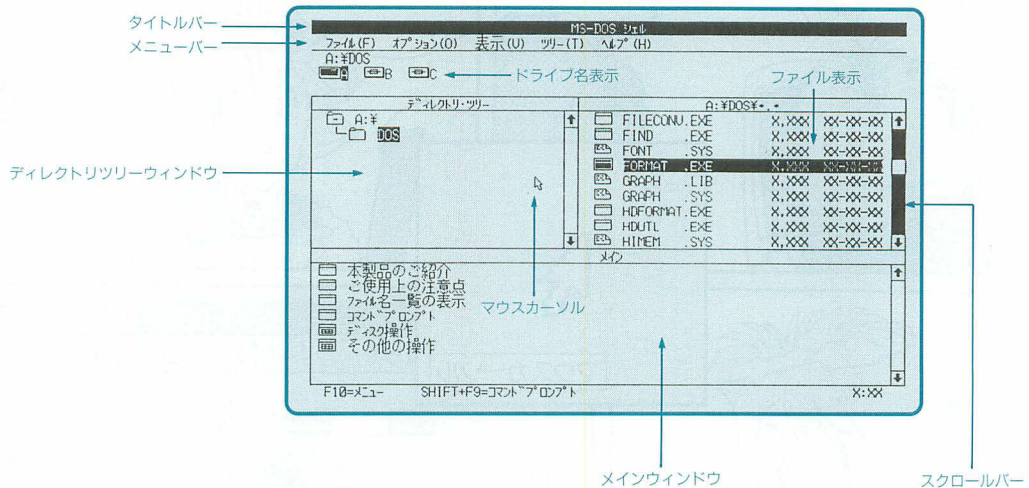
AUTOEXEC.BATファイルについては『ステップアップマニュアル』の「2.4 コマンドの連続実行――バッチ処理」を、ファイルの書き替えについては『ステップアップマニュアル』の「第6章　スクリーンエディタ」を、それぞれ参照してください。

● DOSシェルの再起動

MS-DOSの画面が表示されているときには、次のようにしてDOSシェルを起動することができます。

"DOSSHELL"とキーボードから入力して ⏎ キーを押します。

DOSシェルを再起動させたところ。こんどはマウスが使えるので、マウスカーソルが表示されている。

DOSシェルの画面を見てみよう

DOSシェルの初期画面は次のようになっています。

ウィンドウの名前が書かれている横棒が「タイトルバー」です。タイトルバーで区切られた領域をウィンドウと呼びます。

初期画面では、ディスクドライブの形をしたアイコンとドライブ名が書かれている場所があり、その一つが反転表示になっています。その下には、そのドライブの中のようすが、ディレクトリ名とファイル名のウィンドウに分けて表示されています。

さらにその下に大きく広がっているウィンドウには、現在DOSシェルから起動できるように登録されたプログラムタイトルが表示されています。タイトルバーに「メイン」と表示されていますから、「メインウィンドウ」と呼びます。

スクロールバーについては、「第4章　ファイルを探すテクニック」の「ファイル一覧のスクロール」を参照してください。

・メインウィンドウへの戻し方

第2章以降の説明では、メインウィンドウを例に使います。いろいろいじっているうちに画面が変わってしまったときは、次の操作でメインウィンドウに戻してください。

①メニューバーの「表示」を選択します。
②プルダウンメニューから「プログラム・リスト」を選択します。
③画面が変わってもメインウィンドウが表示されなければ、プログラムリストのいちばん上の「メイン」を選択します。

マウスの使い方

んっ
このクルクル動く矢印は何です？
カチ
カチ
これはマウスカーソルと言って

マウスカーソル
MS-DOS シェル
(V)　ツリー(T)　ヘルプ(H)
E　F

このマウスを…
机の上で動かすとマウスカーソルもいっしょに動くのよ

おおっほんとだ
グルグル動く…
あ…マウスが机からはみだす…

こうやって持ち上げてもとに戻せばほら大丈夫！
この2つのボタンはなにするものですか？

これはDOSシェルを
操作するもので
あの矢印と
深い関係があるの

項目に
マウスカーソルを
あわせて…

クリックと言って
ここのボタンを
1回押すの…
クリック

すると
DOSシェルが
答えて
くれるわ…

カチッ
スーッ
カチッ
カチッ
はぁ
ほかにもドラッグと言って
ボタンを押しながら
マウスを動かすとか…
ダブルクリックと言って
すばやくクリックを
2回する動作もあるわ!!

よ～し
これでマウスの使い方は
カンペキだ～!!
ゴチャッ
あれで どうやって
マウスを使うの
かしら…

CHAPTER 1

プログラムリストを使ってみよう

メインウィンドウに表示されているのは、現在DOSシェルから起動することのできるプログラムの一覧です。これを「プログラムリスト」と呼びます。

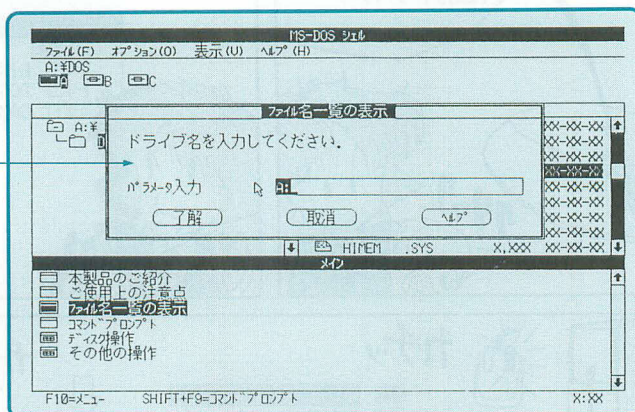
プログラムリストから、「ファイル名一覧の表示」を選んで動かしてみましょう。

●まずキーボードで操作

①［TAB］キーを3回押して、メインウィンドウを選択します。メインウィンドウのタイトルバーの色が濃くなって、選択されたことがわかります。

②［↑］［↓］キーを押して「ファイル名一覧の表示」を反転させます。

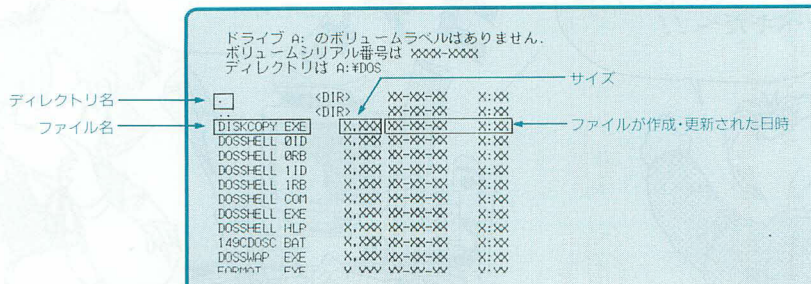
③［⏎］キーを押します。

小さなウィンドウが表示されます。

コマンドによっては、このような「ダイアログボックス」が表示される。

DOSシェルを使っていると、よくこのようなウィンドウが出てきます。このウィンドウの中で、これから起動するプログラムに注文を付けることができます。上の例では、ここで「どのドライブのファイル名一覧を表示させるか」を指定できます。

プログラムやメニューを選んだときに出てくるこのようなウィンドウを「ダイアログボックス」と呼びます。

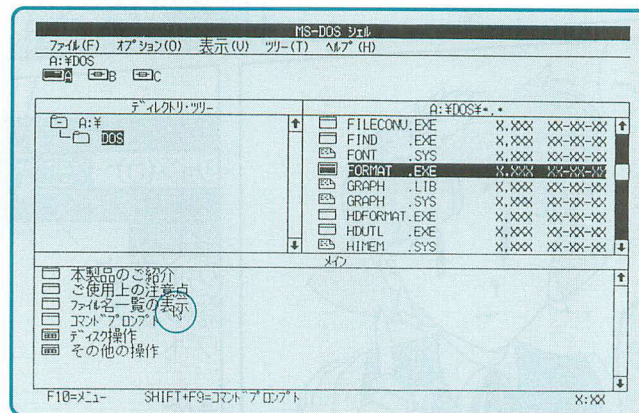
④そのまま［⏎］キーを押します。

ドライブAのファイル名一覧が表示されます。

⑤キーボードのキーをどれでもいいから押します。

DOSシェルの画面に戻ります。

● **続いてマウスで操作**

同じことをマウスを使ってやってみましょう。

①マウスカーソルを「ファイル名一覧」の表示に合わせます。マウスの場合は、あらかじめメインウィンドウを選択しておかなくてもかまいません。

マウスカーソルの先端を、起動したいプログラム名の上に重ねてダブルクリックする。

②ダブルクリックします。

左ボタンをカチカチッと2回押してください。

ダイアログボックスが表示されます。

③「了解」にマウスカーソルを合わせてクリックします。

ファイル名一覧が表示されます。

④キーボードのキーをどれでもいいから押します。

ここではマウスは使えませんので、キーボードのキーを押してください。DOSシェルの画面に戻ります。

・**起動を中止したいときは**

ダイアログボックスが表示された時点で、プログラムの起動を中止してDOSシェルの画面に戻るには、次のように操作します。

ESC キーを押します。

「取消」(ダイアログボックスによっては「クローズ」)をクリックします。

この操作は、ダイアログボックスが表示されているときはいつでも使えますので、覚えておいてください。

メニューバーの使い方

ファイル(F)　オプション(O)　表示(V)

本製品のご紹介
ご使用上の注意点
ファイル名一覧の表示
コマンドプロンプト
ディスク操作
その他の操作

ここにファイルとか表示とかって出てますけど何ですか？

メニューバーと言って

DOSシェルを操作するものよ

じゃマウスカーソルで表示の所をクリックしてみて

ション(O)　表示(V)　ヘルプ

ええと…

カチッ

じゃその調子で
さっきの画面に
戻してみて！

え～と
…

まず
表示(V)を押して…
メニューを出して…

MS-DOS
表示(V) ツリー(T)
1ファイル・リスト(S)
B:¥
BIN
DOS
GAMES

さっきのは
プログラム・
リストね

ってことは
今度はP
ですね

＼ パッ ／

ファイル(F) オプション(O) 表示(V)
本製品のご紹介
ご使用上の注意点
ファイル名一覧の表示
コマンドプロンプト
ディスク操作
その他の操作

おおっ
戻った！！

おおおお…
これはおもしろい
じゃないですか…

今の操作はカーソルキーや
⏎キーでもできるのよ！

グル
ペコ
ペコ

この章のおさらい

ここでは、DOSシェルを実際に使い始める前に知っておいていただきたい、基本的なことがらを紹介しました。

この章の内容を確認してみましょう。

Q1　DOSシェルの起動のしかたは？

Q2　パソコンの電源を切るときは、まずDOSシェルを終了させます。では、その終了のしかたは？

Q3　次はすべてDOSシェルの画面各部の名称です。それぞれどんなものか覚えていますか？

タイトルバー、メニューバー、メインウィンドウ、
ディレクトリツリー、ダイアログボックス、プルダウンメニュー

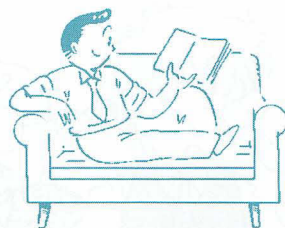
Q4　DOSシェルでマウスを使うときは、次の3つの押し方を使い分けます。それぞれどのように押せばよいでしょう。

クリック、ダブルクリック

答があやふやなときは、もう1度該当ページに戻って確かめておきましょう。まんがもよく読んでください。

その他、次のことも覚えておいてください。

・MS-DOSの画面からDOSシェルを起動するときは、"DOSSHELL"とキー入力して[⏎]キーを押す。DOSシェルでマウスを使いたければ、その前に"MOUSE"とキー入力して[⏎]キーを押す。
・メニューバーのメニューを使うときは、[GRPH]キーか[f･10]キーを押す(キーボードの場合)。
・メインウィンドウを選ぶときは、[TAB]キーを何回か押す(キーボードの場合)。

次章からは、ここで覚えたことをもとに、DOSシェルの具体的な活用方法の紹介に入ります。

第2章
プログラムを起動！

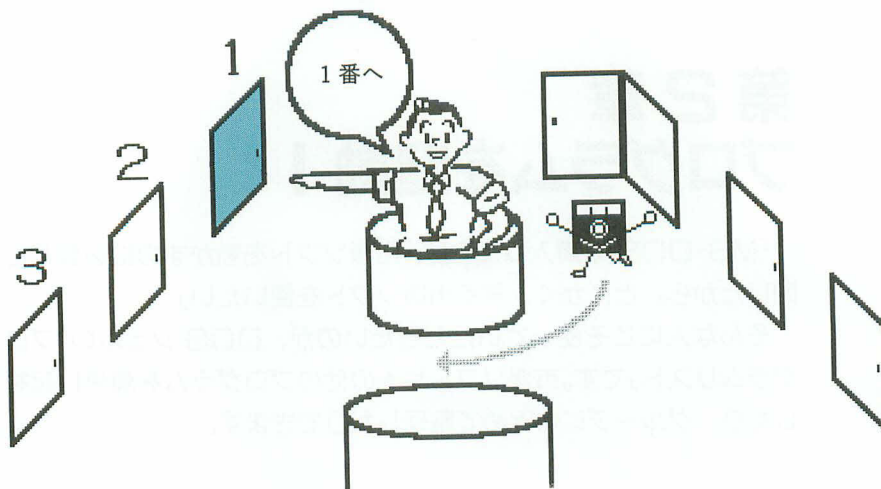
「MS-DOSを購入したのは、市販ソフトを動かすのに必要だと聞いたから。とにかく、早く市販ソフトを使いたい」

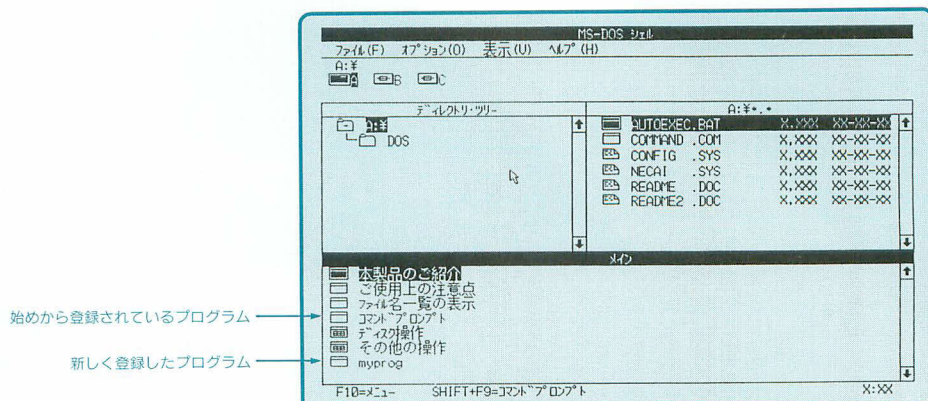
そんな人にこそ使っていただきたいのが、DOSシェルの「プログラムリスト」です。市販ソフトやその他のプログラムを簡単に起動したり、グループにまとめて整理したりできます。

CHAPTER

プログラムを管理する――プログラムリスト

コンピュータではいろいろなプログラムを動かすことができます。それぞれのプログラムの役割や名前をすべて覚えておくのはたいへんなことです。

DOSシェルは、こうしたプログラムの管理をあなたにかわってやってくれます。

DOSシェルが持っている、プログラムを管理する機能のことを、「プログラムリスト」といいます。

プログラムリストを使うには、管理してもらいたいプログラムをDOSシェルに登録します。登録したプログラムの名前はリストに表示され、名前を選ぶだけでそのプログラムを実行することができます。

始めから登録されているプログラム（矢印で示す）と新しく登録したプログラム（矢印で示す）。

● プログラムリストを使うための準備

プログラムリストを使うときは、メインウィンドウを表示させます。

DOSシェルを起動し、メインウィンドウが表示されていることを確認してください。メインウィンドウが表示されていないときは、次の操作でメインウィンドウに戻します。

①メニューバーの「表示」を選択します。

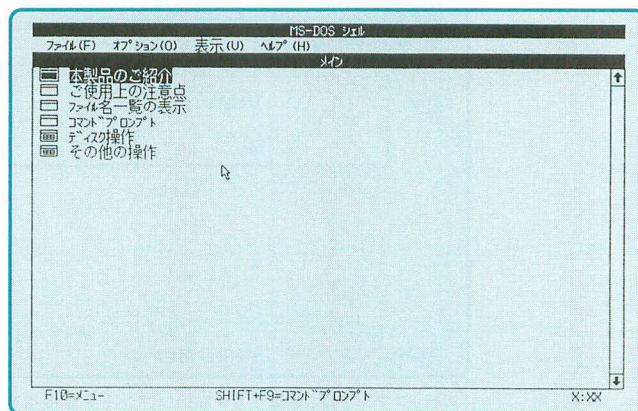
GRPH キーまたは f·10 キーを押してから、← → キーで「表示」メニューを反転させて ⏎ キーを押します。

「表示」をクリックします。

②プルダウンメニューから「プログラム・リスト」を選択します。

③画面が変わってもメインウィンドウが表示されないときは、プログラムリストのいちばん上の「メイン」を選択します。

↑ キーで「メイン」に反転表示を合わせて、⏎ キーを押します。

「メイン」をダブルクリックします。

メインウィンドウは、上部に〝メイン〟と表示されているので区別することができる。

以降の操作では、未使用の(何も入っていない)フロッピィディスクを使う機会があるかもしれません。フロッピィディスクは、最初に「初期化」といわれる作業をしないとMS-DOSでは使用できないので、未初期化のフロッピィディスクはまず初期化してください。

フロッピィディスクを初期化する方法は、別冊の『ステップアップマニュアル』の「第2章 2.6 ディスクの管理」を参照してください。

プログラムの登録と起動

では、実際にプログラムをDOSシェルに登録して、起動してみます。

ここでは例として、〝CHKDSK〟というプログラムを使います。CHKDSKはMS-DOSに付いているプログラム（コマンド）です。

● 登録していないプログラムの起動

プログラムを登録する前に、CHKDSKとはどんなプログラムなのか、実際に使ってみましょう。

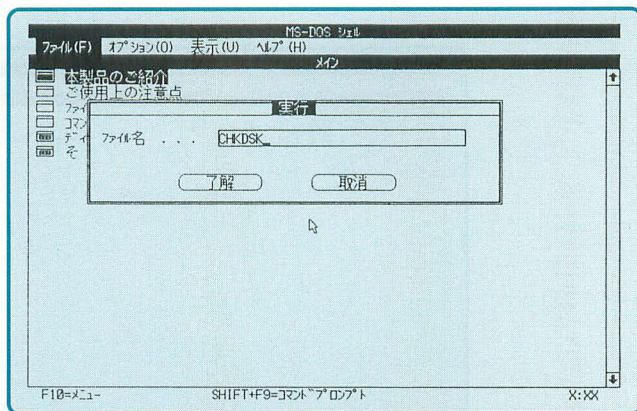
①メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

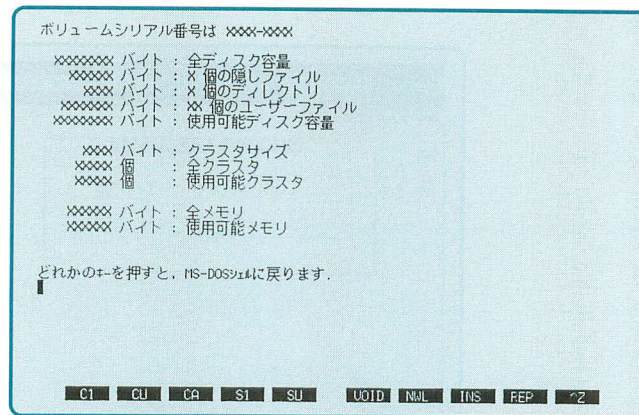
「ファイル」をクリックします。

②プルダウンメニューから「実行」を選択します。

ダイアログボックスが表示されます。

③「CHKDSK」と入力します。

「実行」コマンドは、登録していないコマンドを直接指定して実行するためのコマンド。

④ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。

以上の操作でCHKDSKが起動します。画面は次のようになります。

コマンドの実行後には、何かキーを押すとDOSシェルに戻ることができる。

CHKDSKは、ディスクの中身を調べるためのコマンドでした。
ここでは、表示の意味はわからなくてもかまいません。
⑤キーボードのキーをどれでもいいから押すと、DOSシェルに戻ります。

● プログラムの登録

先ほどの操作で、他のコマンドや市販ソフトも起動することができます。しかし、コマンドをまちがいなく入力するのはめんどうですし、つづりを忘れてしまったときは調べ直さなくてはなりません。

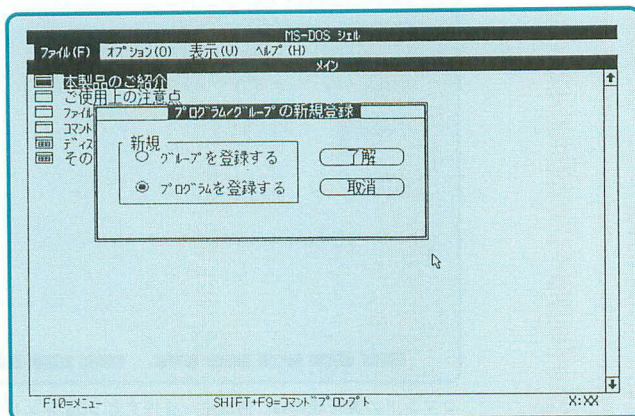
そこで、もっと簡単に起動できるようにするために、プログラムをDOSシェルに登録します。

ここでは先ほどのCHKDSKコマンドを登録してみましょう。

①メニューバーの「ファイル」を選択します。

[GRPH]キーまたは[f･10]キーを押してから、[←][→]キーで「ファイル」を反転させて[⏎]キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

②プルダウンメニューから「新規登録」を選択します。
ダイアログボックスが表示されます。

プログラムリストに新しくプログラムを登録するときには、いつもこの「新規登録」を使う。

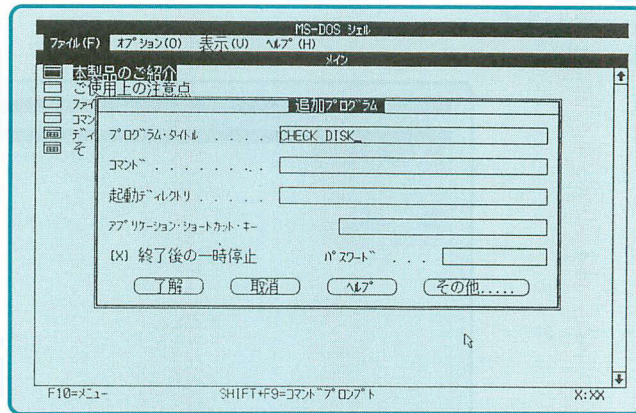
CHAPTER 2

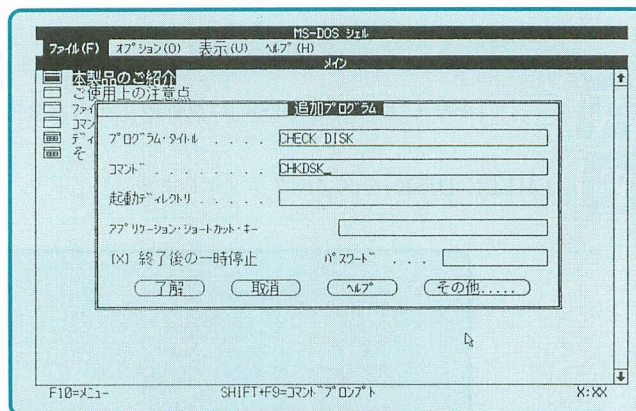
注意

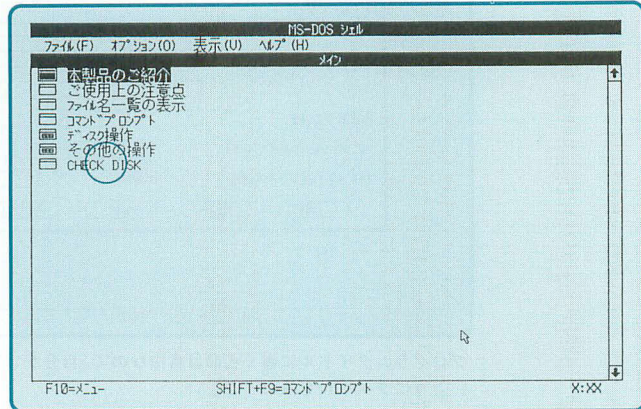
「ファイル」メニューを選択しても「新規登録」コマンドが出てこないことがあります。DOSシェルでは、「メインウィンドウ」が選択されていないときにはプログラムを登録することができません。他のウィンドウが選択されているときには、メインウィンドウをマウスでクリックするか、TAB キーを何度か押して、まずメインウィンドウを選択しておいてください。

③「プログラムを登録する」の先頭が◉になっていることを確認します。
「グループを登録する」が◉になっているときは、↓ キーを押すか、「プログラムを登録する」をクリックします。

④ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。

⑤「プログラム・タイトル」の欄に「CHECK DISK」と入力します。
日本語で適当な名前を入力してもかまいません。

プログラムタイトルに書く名前は自由なので、自分がコマンドを区別しやすいようにタイトルを決めるとよい。

⑥[↓]キーを押すか、または「コマンド」の入力欄をクリックします。
「コマンド」の入力欄にカーソルが移動します。
⑦"CHKDSK"と入力します。

コマンドラインには、MS-DOS でコマンドを実行するときと同じ書式でコマンド名を書く。

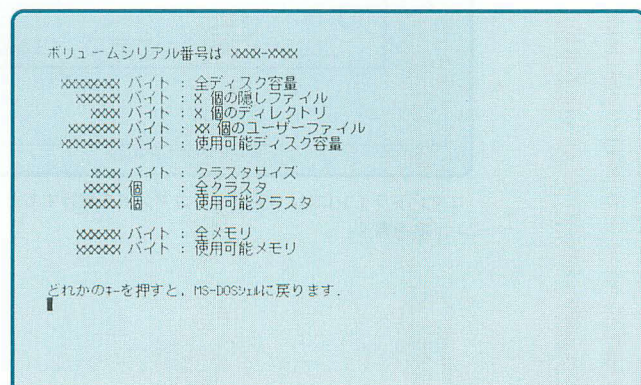
⑧ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。
ダイアログボックスが消えます。
メインウィンドウをご覧ください。「CHECK DISK」というタイトルが追加されています。

新しく、CHKDSK コマンドを「CHECK DISK」という名前で登録できた。

● 登録したプログラムの起動

登録したプログラムを起動してみましょう。

「CHECK DISK」を起動します。

↑ ↓ キーで「CHECK DISK」に反転表示を合わせて、⏎ キーを押します。

「CHECK DISK」をダブルクリックします。

先ほど「実行」コマンドで実行したときとまったく同じ画面で起動されていることがわかる。

CHKDSK を起動することができましたね。
キーを押して、DOS シェルに戻ってください。

・うまく実行できないときは

「コマンドまたはファイル名が違います.」と表示された場合は、登録するときに「コマンド」の入力をまちがえた可能性があります。

キーを押して DOS シェルに戻り、次のように操作してみてください。

①タイトル「CHECK DISK」に反転表示を合わせます。
②メニューバーの「ファイル」を選択します。
③プルダウンメニューから「登録情報」を選択します。
登録した内容が表示されます。「コマンド」の欄を見て、正しく"CHKDSK"と入力されているかどうか確かめてください。
まちがっていた場合、次の操作で修正できます。
④ ↓ キーを押すか、または「コマンド」の入力欄をクリックします。
⑤コマンド名を正しく入力し直します。
⑥ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。

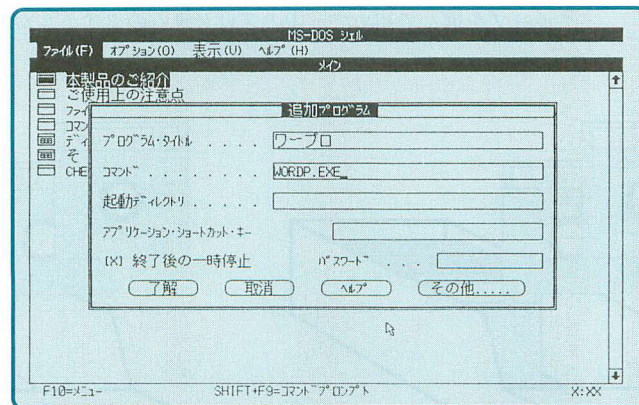
CHAPTER 2

● 市販ソフトの登録と起動

ここでは、CHKDSK という MS-DOS のコマンドを登録してみました。ワープロ、データベースなどの市販ソフトも、同じように DOS シェルに登録することができます。次の順に作業します。

(1) ソフト添付のマニュアルを見ながら、市販ソフトをインストールします。
(2) 市販ソフトを DOS シェルに登録します。

これで、市販ソフトを DOS シェルから起動できるようになります。

● 登録例

市販ソフトの名称をわかりやすく、起動コマンドを正確に入力する。

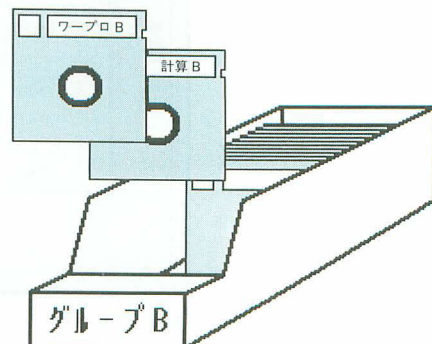
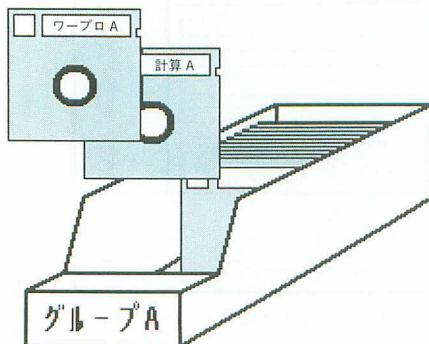
DOSシェルから起動した市販ソフトを終了すると、「どれかのキーを押すと、MS-DOSシェルに戻ります」と表示され、キーを押すとDOSシェルの画面に戻ります。DOSシェルは、いろいろなソフトやプログラムのホームグラウンドの役割をはたしているわけです。

登録したプログラムの管理

プログラムをどんどん登録していくと、乱雑な本棚のようになってしまうこともあります。ここでは、グループ分け、いらなくなったプログラムの登録情報の削除など、プログラムをきちんと整理するためのノウハウを紹介しましょう。

● グループをつくって整理する

メインウィンドウにたくさんのプログラムを登録してしまうと、タイトルがずらずらと表示されて、必要なプログラムを探すのもたいへんになってしまいます。

そこで、プログラムをグループ分けして登録しておくことができます。プログラムをグループ分けすると、メインウィンドウにはグループのタイトルだけが表示され、グループを選んで初めて、中のプログラムのタイトルが表示されます。

メインウィンドウにはじめから登録されているプログラムも、実はグループ分けされています。

表示されているタイトルがプログラムなのか、グループなのかは、タイトルの先頭に付いているアイコンの形で区別することができます。

▭ ………… プログラムのアイコン

▦ ………… グループのアイコン

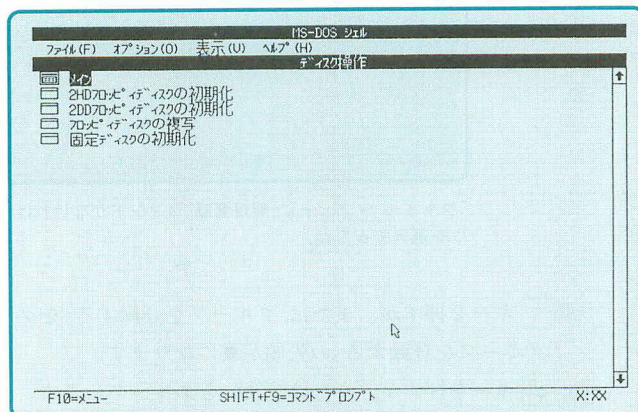
グループのアイコンは、四角の中にまた多くの四角が書かれたような形になっている。

「ディスク操作」というグループを選んで、中のプログラムを見てみましょう。

「ディスク操作」をオープンします。

[↑] [↓] キーで「ディスク操作」に反転表示を合わせて、[↵] キーを押します。

「ディスク操作」をダブルクリックします。

グループの中のプログラムのリストが表示されます。

「ディスク操作」グループの中には、ディスク単位で操作するコマンドがあらかじめ登録されている。

リストのいちばん上の「メイン」を選んで、メインウィンドウに戻ってください。

○グループをつくってみよう

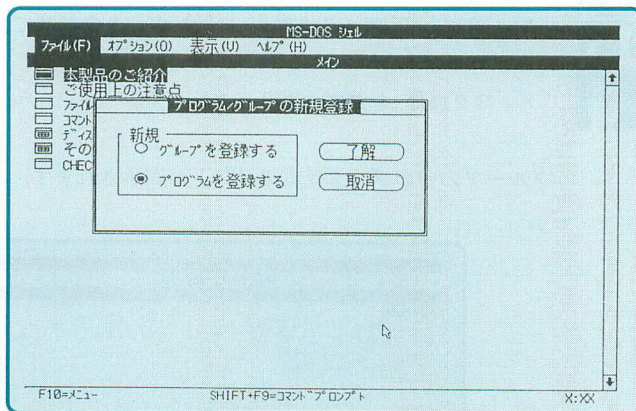
では、新しいグループをつくってみましょう。

ここでつくるグループは、プログラムを入れるための容器で、いわば空っぽの引き出しのようなものです。

①メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f·10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

②プルダウンメニューから「新規登録」を選択します。

ダイアログボックスが表示されます。

「ファイル」メニューに「新規登録」コマンドがなければ、まずメインウィンドウを選択すること。

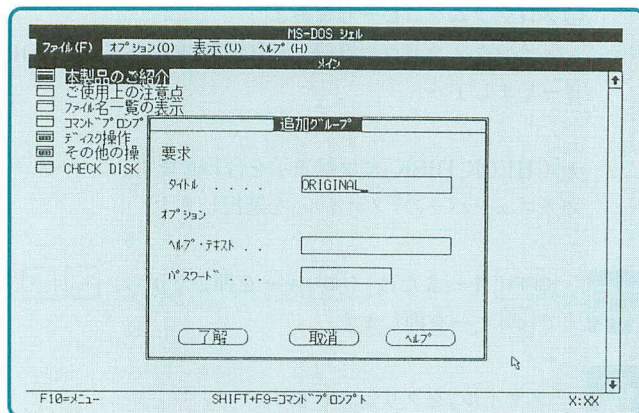
③ ↑ キーを押すか、または「グループを登録する」をクリックします。

「グループを登録する」の先頭が◉になります。

④ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。

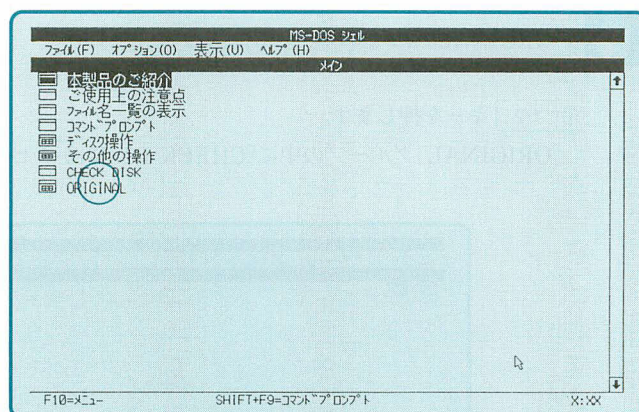
ダイアログボックスが表示されます。

⑤試しに〝ORIGINAL〟と入力します。

日本語で適当な名前を入力してもかまいません。

グループのタイトルも、自由に入力できる。わかりやすい名前にしよう。

⑥ ↵ キーを押すか、または「了解」をクリックします。

ダイアログボックスが消えます。

メインウィンドウに、新しく〝ORIGINAL〟というタイトルが追加されています。

新しいグループが追加されている。グループであることは、アイコンなどで確認できる。

● プログラムをコピーする

新しくつくったグループには、まだ１つもプログラムが登録されていません。以後、プログラムを登録するときは、グループをオープンしてから登録の操作をすると、グループの中にプログラムが登録されます。

しかし、DOSシェルを使っていくうちには、このプログラムは他のグループに移したい、と思うこともあります。このようなとき、登録したプログラムを他のグループにコピーすることができます。

○プログラムをコピーしてみよう

メインウィンドウに登録した「CHECK DISK」を、「ORIGINAL」グループの中にコピーしましょう。

①「CHECK DISK」に反転表示を合わせます。
②メニューバーの「ファイル」を選択します。

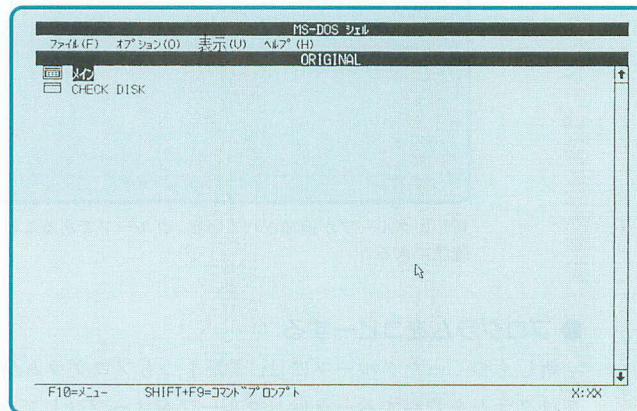
GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

③プルダウンメニューから「コピー」を選択します。DOSシェル画面のいちばん下に、「コピー先のグループをオープンし, F2キーを押してください.」と表示されます。
④コピー先のグループ「ORIGINAL」をオープンします。

↑ ↓ キーで「ORIGINAL」に反転表示を合わせて ⏎ キーを押します。

「ORGINAL」をダブルクリックします。

⑤ f･2 キーを押します。
「ORIGINAL」グループの中に「CHECK DISK」がコピーされます。

「CHECK DISK」がコピーされた。

いちばん上の「メイン」を選んでメインウィンドウに戻ってください。

● プログラムの登録情報を削除する

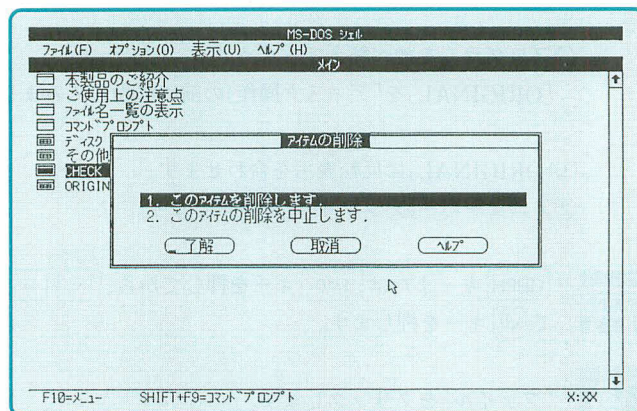
DOSシェルに登録しておく必要がなくなったプログラムは、いつでも削除することができます。

メインウィンドウの「CHECK DISK」を削除してみましょう。

①メインウィンドウの「CHECK DISK」に反転表示を合わせます。
②メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。
または DEL キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

③プルダウンメニューから「削除」を選択します。
ダイアログボックスが表示されます。「1.このアイテムを削除します.」が反転しています。

“2.”を選択すると、削除を中止することもできる。

④ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。
「CHECK DISK」がメインウィンドウから消えます。

・削除したプログラムはもう使えない？

グループから削除してしまったプログラムはもう使えないかというと、そんなことはありません。

削除されるのは登録の情報だけですから、タイトルが表示されなくなるだけで、プログラム自体は残っています。ですから、同じプログラムを「ファイル」メニューの「実行」コマンドで実行することができます。再び登録することもできます。

・グループを削除するには

プログラムを削除するのと同じ操作でグループも削除できます。ただし、削除するグループは空っぽでなくてはなりません。

グループの削除は、そのグループに登録したプログラムをすべて削除してから行ってください。

● プログラムを並べ替える

プログラムやグループは登録した順に表示されますが、この順番を変えることができます。よく使うプログラムを上にするなど、使いやすいように並べ替えてください。

○プログラムを並べ替えてみよう

「ORIGINAL」を「ディスク操作」の前に移動してみましょう。

①「ORIGINAL」に反転表示を合わせます。
②メニューバーの「ファイル」を選択します。

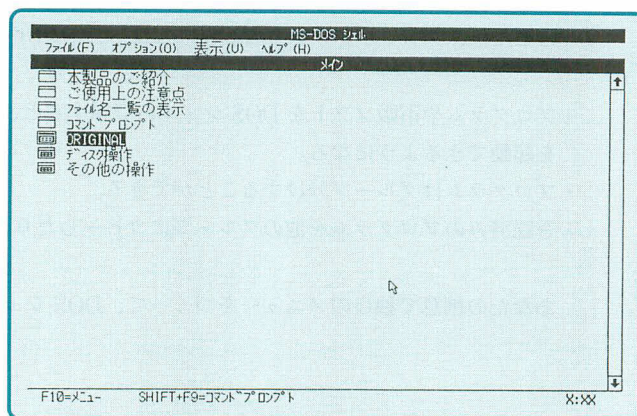
GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

③プルダウンメニューから「再配置」を選択します。DOSシェル画面のいちばん下に、「移動先の位置を選択して，リターンキーを押してください.」と表示されます。
④新しい表示位置を指定します。

↑ ↓ キーで「ディスク操作」に反転表示を合わせて ⏎ キーを押します。

「ディスク操作」をダブルクリックします。

「ORIGINAL」の位置が変わります。

ウィンドウ内での位置が変わっても、操作には変化はない。

DOS シェルの終了

プログラムリストの紹介はこれで終わりです。コンピュータの電源を切る前に、DOS シェルを終了させてください。

①メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f·10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

②プルダウンメニューから「終了」を選択します。

DOS シェルが終了します。再度起動させるときは、〝DOSSHELL〃と入力して ⏎ キーを押してください。

この章のおさらい

ここでは、プログラムリストの基本的な使い方を紹介しました。

- プログラムや市販ソフトを DOS シェルに登録すると、DOS シェルからプログラムを起動できるようになる。
- プログラムはグループ分けすることができる。
- 登録済みのプログラムを他のグループにコピーしたり、削除したりして整理できる。

あなたの創意で独自のメニューをつくって、DOS シェルを活用してください。

第３章
ファイルを探すテクニック

DOS シェルには、プログラムを管理する他に、もう１つとても大事な仕事があります。その仕事とは、ディスクの中のファイルの管理です。

「ファイルの管理」とは、具体的にいうと、ファイルをコピーしたり削除したり、ファイルの名前を変えたり、といった作業を指します。しかしこれらの作業をするには、まず目的のファイルを探し出す必要がありますね。

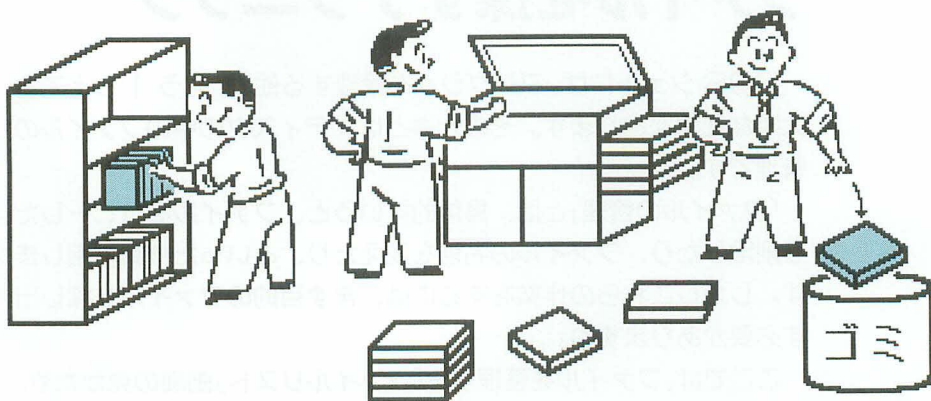
ここでは、ファイルを管理する「ファイルリスト」画面の見かたや、必要なファイルを表示させるための操作を紹介します。実際のファイル管理に入る前に、まずファイルの探し方を身に付けてください。

CHAPTER

ファイルを管理する——ファイルリスト

●ファイルの管理とは？

MS-DOSは、プログラムやデータをすべてファイルという単位でまとめています。前の章で使ったCHKDSKというプログラムも1つのファイルです。

ワープロソフトでつくった文書も、表計算ソフトでつくった表も、みんなファイルです。ですから、どんな種類のソフトを使う場合でも、ファイルの管理が必要になってきます。

ワープロなどの市販ソフトでもこうした作業はできます。しかしDOSシェルには、いろいろな種類のファイルをいっしょに表示したり、ディスクの構造をひと目でわかるように図示したりする機能があります。これらの特徴を使うと、効率のよいファイル管理ができます。

DOSシェルが持っているファイルを管理する機能のことを、「ファイルリスト」といいます。

● ファイルリストの画面に切り替える

初めてDOSシェルを起動したときの画面は、プログラムリストの「メインウィンドウ」とファイルリストのウィンドウに分かれています。

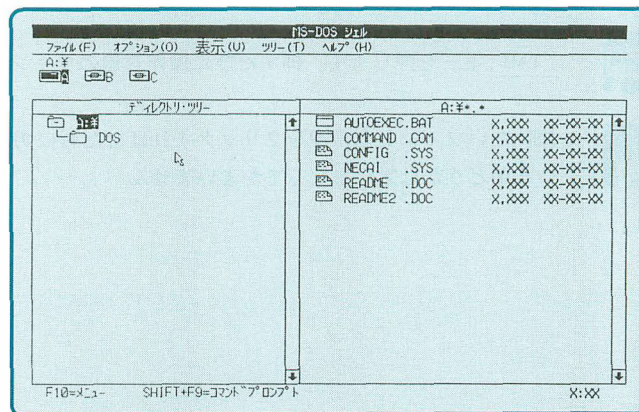
ファイルリストのウィンドウに切り替えてみましょう。

①メニューバーの「表示」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「表示」を反転させて ⏎ キーを押します。

「表示」をクリックします。

②プルダウンメニューから「1 ファイル･リスト」を選択します。

画面が次のように変わります。

ファイル名や拡張子については、「第4章　楽してファイルを整理する」の「ファイル名にはルールがあります」を参照してください。

● 3つのウィンドウ

ファイルリストの画面は、「ドライブ選択ウィンドウ」、「ディレクトリツリーウィンドウ」、「ファイル表示ウィンドウ」の3つに分かれています。

DOSシェルの初期状態では、ドライブ選択ウィンドウが操作対象になっています。どのウィンドウが操作対象になっているかは、タイトルバーの色を見ればわかります。あるウィンドウを操作対象にすることを、「選択する」ともいいます。

ただし、ノート型の機種をお使いの場合や、モノクロディスプレイをお使いの場合、DOSシェルの配色を「モノクロ」や「リバース」などに変更しているときは、タイトルバーの色では区別ができません。特にキーボードでDOSシェルをお使いの方は、操作したいウィンドウに先に切り替える癖をつけるようにお勧めします。

○ウィンドウの切り替え方

TAB キーを押します。押すたびに操作対象のウィンドウが切り替わります。

使いたいウィンドウの中をクリックすればただちに切り替わりますので、選択されているかどうかは気にしなくてかまいません。

CHAPTER 3

● プログラムファイルと文書ファイル

ファイルには、プログラムファイルと文書ファイルの２種類があります。

・プログラムファイル

コンピュータに仕事をさせるための指示がつまったファイルです。

前章で使った「CHKDSK」はプログラムファイルの仲間です。

・文書ファイル

データが入ったファイルです。

たとえばワープロソフトでつくった文書は、その名の通り文書ファイルです。また図形のデータや辞書なども文書ファイルの仲間です。

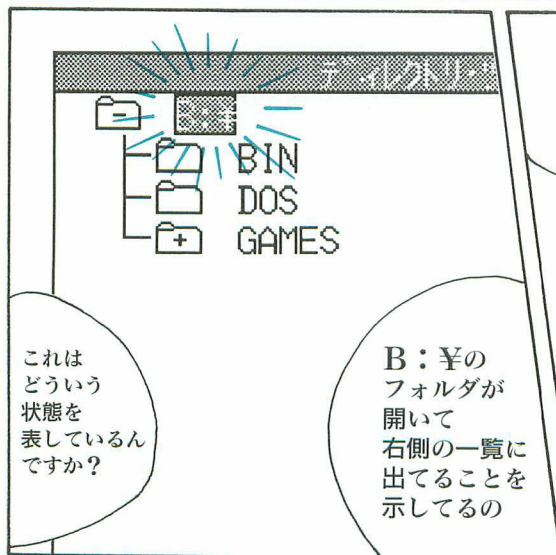
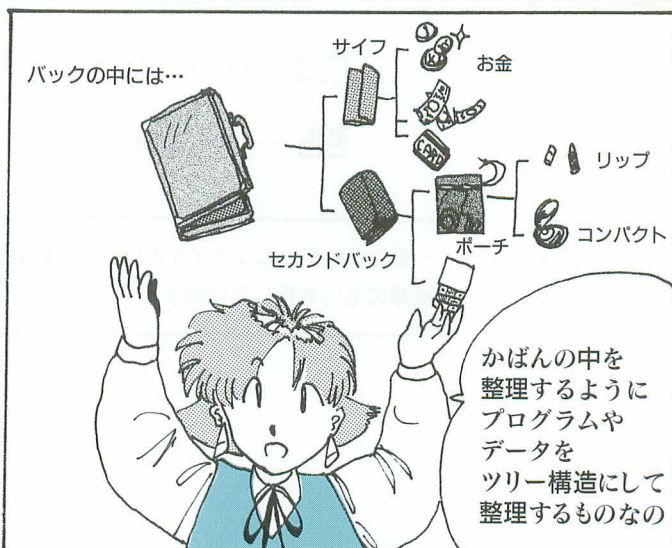
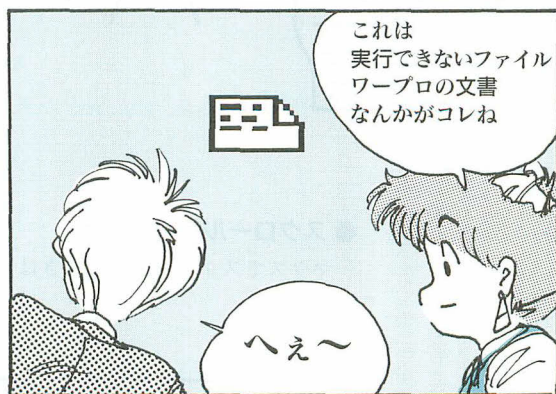
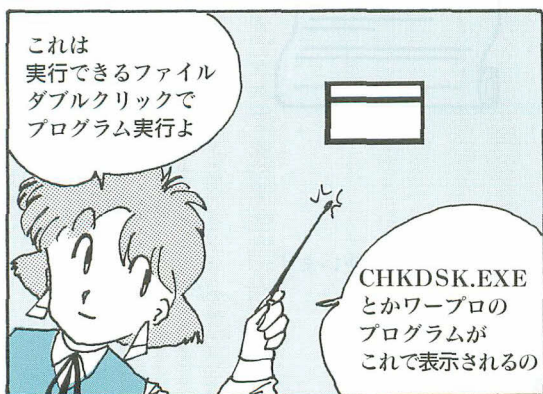
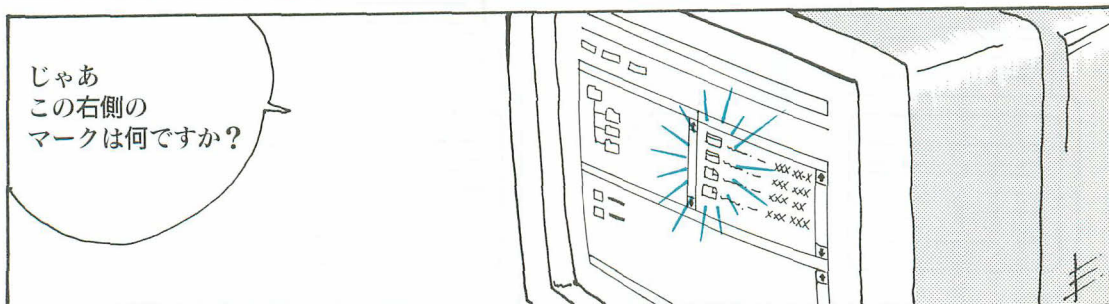
ファイル表示ウィンドウでは、ファイル名の先頭に付いているアイコンで、どちらのファイルかを区別することができます。

…………プログラムファイル

…………文書ファイル

一般にプログラムファイルとは、ファイル名の拡張子が“COM”“EXE”“BAT”の３種類のものを指しています。

ディレクトリってどんなもの？

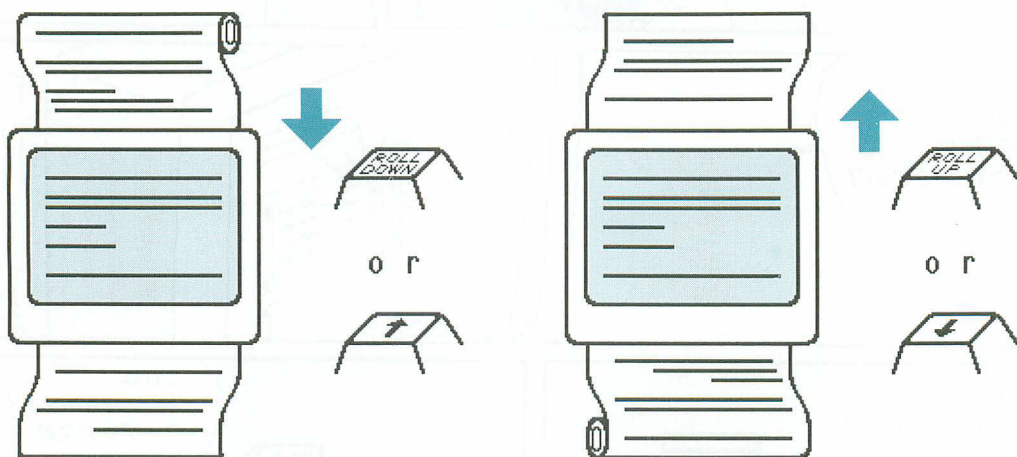
なんにもなしは
中にディレクトリが
ないっていうマーク
中のディレクトリが
表示されてるって
状態がこのマーク
クリックで閉じるわ
これは中に
ディレクトリが
入っています
っていう表示で
クリックすると
中のディレクトリが
見られるの
じゃあ
この右側の
マークは何ですか？
これは
実行できないファイル
ワープロの文書
なんかがコレね
へぇ〜
これは
実行できるファイル
ダブルクリックで
プログラム実行よ
CHKDSK.EXE
とかワープロの
プログラムが
これで表示されるの
せっかく
フォルダ(ディレクトリ)に入れても
整理しとかなきゃ
ねぇ…
げっ
会議の
ファイルは
どのフォルダ
だっけ…
おーい
会議だぞー
CHAPTER 3

ファイル一覧のスクロール

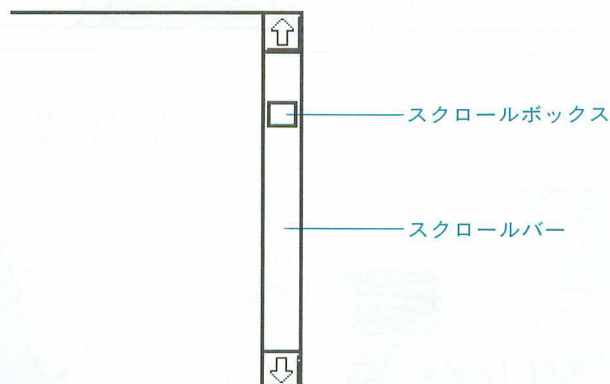
ファイル一覧ウィンドウには、最大18個までのファイルを、ファイル名のJISコード順(ABC順)に一度に表示できます。

1つのドライブまたはディレクトリに19個以上のファイルがある場合は、残りのファイルはファイル一覧を上下に移動させながら表示します。このような操作のことを「スクロール」といいます。

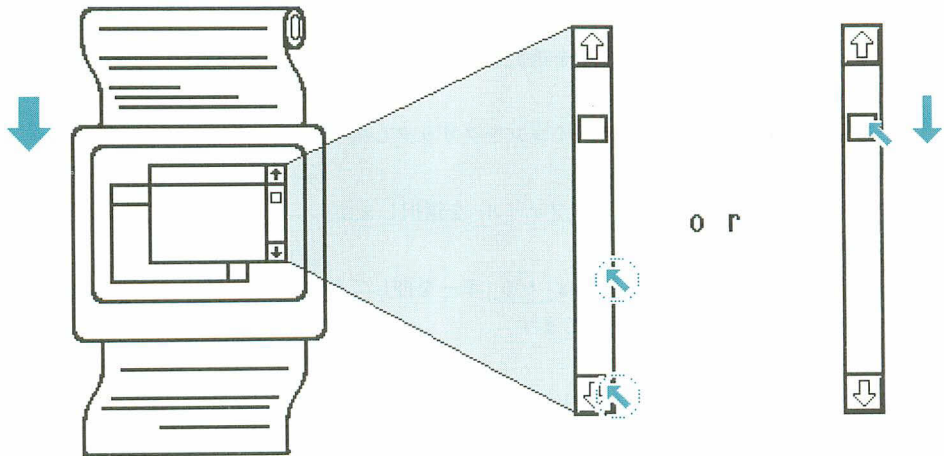
● キーボードでスクロール

[↑] [↓] キーを押し続けると、ファイル一覧が1行ずつスクロールします。

[ROLL UP] [ROLL DOWN] キーを押すと、1画面分一気にスクロールします。

● スクロールバーを使う

マウスでスクロールするときは、スクロールバーを使います。

・高速スクロール

マウスで一気にスクロールする方法は、次の2通りあります。

1. スクロールバーの中の四角い部分(スクロールボックス)を上下にドラッグします。
   スクロールボックスの動きに合わせてファイル一覧がスクロールします。
2. スクロールバーの任意の位置をクリックします。
   クリックした位置にスクロールボックスが移動し、あわせてファイル一覧がスクロールします。

ファジーにおまかせワイルドカード

たとえばこんな経験はないでしょうか。

欲しい本があるのだが、書名を忘れてしまった。たしか「なんとかの追跡」という題だったと思うのだが。

このような状態では、ふつうは注文を出すことができません。しかし本に詳しい店員がいる書店なら、あるいは該当する本を探し出してくれるかもしれません。

DOS シェルは、ちょうど本に詳しい店員のようなものです。あなたがファイル名をよく覚えていなくても、該当するファイルを探し出すことができます。

● わからない名前は「？」で探す

ドライブＡのどこかにある「なんとかEADME.DOC」というファイルが欲しいのですが、ファイル名の最初の１文字を忘れてしまいました。このファイルを探してみましょう。

①ドライブＡを選択します。

[←] [→] キーで「A」を反転させます。他のウィンドウが操作対象になっているときは、[TAB] キーを何度か押してドライブ選択ウィンドウを操作対象にしてからドライブを選択します。

[CTRL] キーを押しながら [A] キーを押すと、どのウィンドウが操作対象になっていてもドライブＡを選択することができます。

ドライブＡのアイコンをクリックします。

②メニューバーの「ファイル」を選択します。

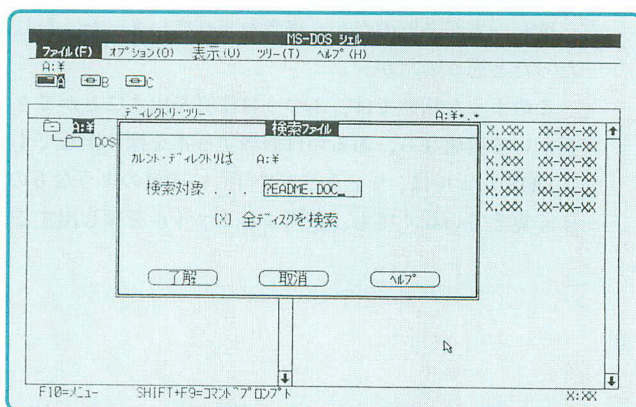
[GRPH] キーまたは [f･10] キーを押してから、[←] [→] キーで「ファイル」を反転させて [⏎] キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

③プルダウンメニューから「検索」を選択します。

ダイアログボックスが表示されます。

④「検索対象」欄の中に、〝？EADME.DOC〟とキー入力します。

最初の１文字がわかりませんから、文字のかわりに「？」を入力します。

検索したいファイル名を、ここで指定する。ファイル名の大文字、小文字は気にしなくてもよい。

⑤「全ディスクを検索」の前に"X"がついていることを確認します。

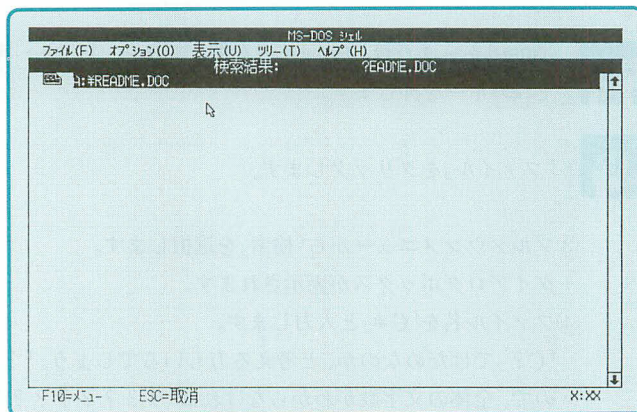
"X"がついていれば、いま選択しているドライブＡの全体、すべてのディレクトリの中を探してくれます。

"X"がついていないときは、次のように操作して"X"を表示させます。

[↓]キー、スペースキーの順に押します。

「全ファイルを検索」をクリックします。

⑥[⏎]キーを押すか、または「了解」をクリックします。

検索結果が表示されます。条件に合う「README.DOC」というファイルが探し出されました。

見つかったファイルのファイル名が表示されている。ここではたまたま１つしか一致していないが、複数のファイルが一致すればみな表示される。
※表示はシステムによってちがいます。

もし指定したファイル名のファイルがそのドライブ内で見つからなければ、「ファイル指定に合致したファイルがありません.」と表示されます。

[ESC]キーを押すと、元のファイルリストの画面に戻ります。

[ESC]キーを押してファイルリストの画面に戻す前に、[CTRL]キーを押しながらドライブ名のキーを押して他のドライブを選択すると、他のドライブにその名前のファイルがあるかどうかを引き続き調べることができます。

●さらにあいまいなときは「*」を使う

もっと大ざっぱな探し方をしてみましょう。「ドライブAのどこかにあって、ファイル名がCで始まる」ということがわかっているだけで、全体の文字数もわからないとします。

①ドライブAを選択します。

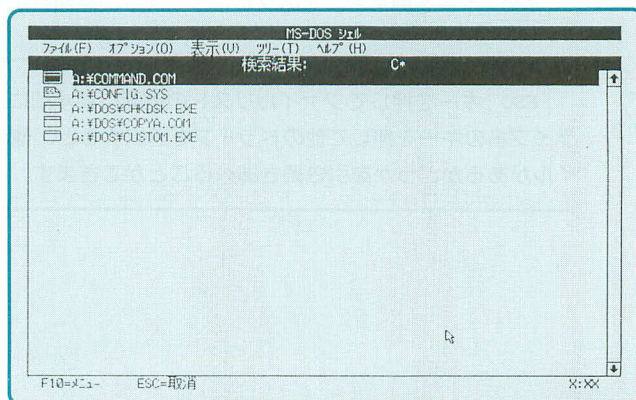
TAB キーを何度か押してドライブ選択ウィンドウを操作対象にし、← → キーで「A」を反転させます。または CTRL ＋ A キーを押します。

ドライブAのアイコンをクリックします。

②メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

③プルダウンメニューから「検索」を選択します。
　ダイアログボックスが表示されます。
④ファイル名を「C＊」と入力します。
　「C？」ではだめなのか、と考える方もいるでしょう。「？」は1文字にしか一致しないので、全体の文字数がわからなければ「？？？？？？？？.？？？」とたくさん使わなければなりません。そこで、ここでは文字数の少ない「*」を使います。
⑤「全ディスクを検索」の前に〝X〟が付いていることを確認します。付いていなければ前に説明した方法で〝X〟を付けます。
⑥ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。
　ドライブAにある、〝C〟で始まるファイル名がすべて表示されます。この中から目的のファイルを選べばよいのです。

こんどは一致するファイル名が複数あったので、いくつか表示されている。

では、画面を元に戻しましょう。

①メニューバーの「表示」を選択します。
②プルダウンメニューから「1 ファイル・リスト」を選択します。
　または ESC キーを押します。

●「?」と「*」はワイルドカード

MS-DOS では、ファイルを探すときに使った文字「？」と「*」を「ワイルドカード」と呼びます。ワイルドカードは、ちょうどトランプのジョーカーのように、他の文字のかわりに使える便利な文字です。

・「？」は 1 文字の代わりになる

たとえば、「ファイル名が 3 文字以下で拡張子が EXE」のファイルを探すときは、〝？？？.EXE〟と指定します。

ファイル名の末尾に付ける「.EXE」などの文字列を拡張子といいます。「第 4 章　楽してファイルを整理する」の「ファイル名にはルールがあります」を参照してください。

・「*」はどんな文字でも、何文字でも OK

「*」は、不特定の文字列の代わりになります。たとえば「拡張子が EXE」のファイルすべてを探すときは、〝*.EXE〟と指定します。この場合、拡張子が〝EXE〟でありさえすれば、〝S.EXE〟というファイルも〝LONGNAME.EXE〟というファイルもすべて当てはまります。

〝*.*〟と指定すれば、あらゆるファイルが当てはまることになります。

この章のおさらい

この章では、ファイルリストを使ってファイルを探すところまでを紹介しました。

- ファイルには、実行可能なプログラムファイルと、データをまとめた文書ファイルの2種類がある。
- ファイルを整理するためにドライブの中につくられる領域をディレクトリという。
- ファイルリストの画面でドライブやディレクトリを選ぶと、中のファイルを見ることができる。
- ワイルドカードを使うと、ファイル名にいろいろな条件を付けてファイルを探すことができる。

次の問題で、ワイルドカードの使い方を確認してみましょう。

Q1　次のようなファイルを探す場合、ワイルドカードをどのように使えばよいでしょうか。

- ファイル名が「DOS」で始まるファイル
- ファイル名（拡張子を除く）が半角7文字以下で、かつ「DOS」で始まるファイル

続いて次章では、ファイルのコピーや削除をしてみます。

Q1の答…DOS*（またはDOS*.*）、DOS????.*

第４章
楽してファイルを整理する

みなさんは日常、必要な書類をコピーしたり、いらなくなったものは捨てたり、身の回りの書類の整理をしていらっしゃることでしょう。MS-DOS のファイルも、同じように整理できます。

ここでは、MS-DOS のシステムに入っているファイルを使って、実際にファイルの整理をしてみましょう。ファイル名の付け方も、あわせて覚えてください。

CHAPTER 4

ファイル名にはルールがあります

ファイルの整理に入る前に、ファイル名について説明しておきましょう。

ファイルリストの画面に表示されるファイル名は、自由なように見えて実はいくつかの約束ごとにしたがって付けられています。ファイル名のルールを知っていると、ファイル名からある程度中身の見当を付けることができます。またファイル名の変更をするときにも、ファイル名についての知識が役に立ちます。

● ファイル名と拡張子

ファイル名がピリオド(.)で区切られた形をしているのにはもうお気づきでしょう。ピリオドまでが「ファイル名の本体」、ピリオドからあとの部分が「拡張子」です。

README . DOC
↑　↑
ファイル名の本体　拡張子

○ファイル名の本体

ファイル名の本体は、ファイルをつくる人が8文字以内で自由に付けることができます。

漢字やひらがななどの全角文字を使うこともできます。その場合は4文字以内で付けます。

〈例〉　ひらがな.DOC

○拡張子

拡張子は3文字以内で、先頭に必ずピリオドを付けます。

拡張子には、ファイルの種類を表わすという役割があります。主な拡張子の意味は次の通りです。

拡張子	意味(機能)
.EXE、.COM	プログラムファイル
.BAT	バッチファイル
.SYS	システムファイル
.BAK	バックアップファイル
.DAT	データファイル
.DOC、.TXT	テキストファイル

CHAPTER 4

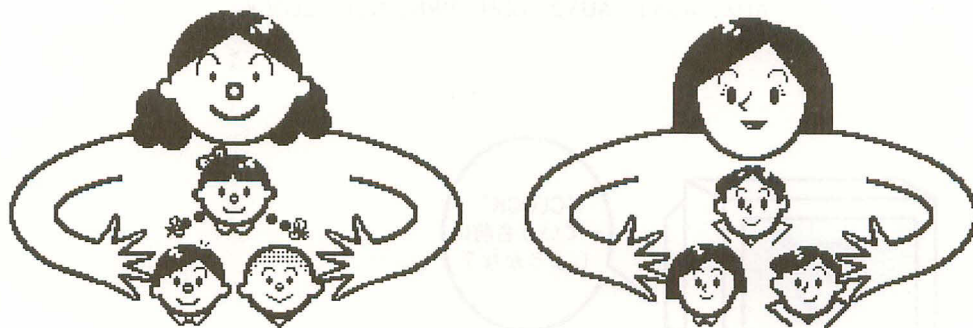
バッチファイルもプログラムファイルの一種です。詳しくは『ステップアップマニュアル』の「2.4　コマンドの連続実行――バッチ処理」をご覧ください。

バックアップファイルとは予備のファイルのことで、ソフトによっては自動的につくります。

テキストファイルは、文書ファイルの中でも特に文字のデータだけが入ったファイルを指します。

拡張子の中でも、〝EXE〟〝COM〟〝BAT〟の3つは特に注意が必要です。これらの拡張子は、コンピュータが直接実行できる種類のファイル(プログラムファイル)に付けます。これらの拡張子を変更してしまうと、中身は同じでもそのプログラムを実行できなくなるので、拡張子を不用意に変えてはいけません。

その他の拡張子はただの慣習ですから、ちがう拡張子を付けてもかまいません。ただ、上の約束ごとにしたがってつけておけば、ファイルをつくった人でなくてもファイルの種類がわかるなど、なにかと便利です。

市販ソフトの多くは、データをファイルとして保存するときに自動的に独自の拡張子を付けます。ですから拡張子を見れば、どのソフトでつくったファイルかということもわかります。

市販ソフトがつくるデータファイルは、それぞれに特徴があります。
親子が似るようなものです。

● ファイル名に使える文字

ファイル名を付けるときは、次の文字が使えます。

アルファベット	A〜Z
数字	0〜9
記号	$ & # % ' ( ) − @ _ ^ { } ~ !
ひらがな	あ〜ん
カタカナ	ア〜ン
漢字	

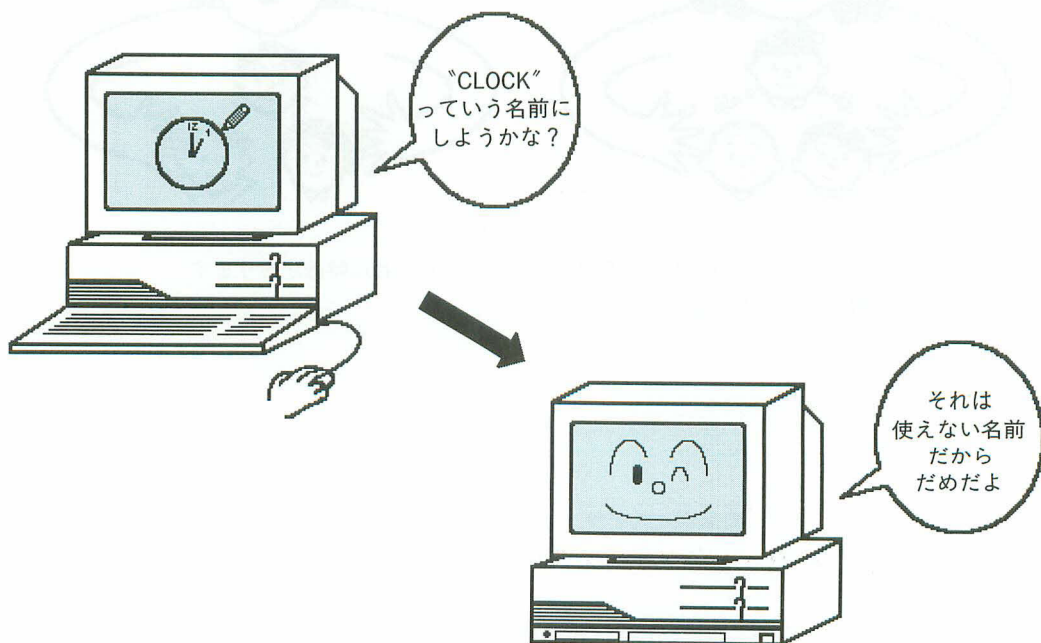
○大文字と小文字

ファイル名を半角のアルファベットで付けた場合、すべて大文字で処理されます。たとえば"abc.doc"と入力しても"ABC.DOC"に変換されます。

全角文字で付ける場合は、同じアルファベットでも大文字と小文字が区別されます。

○先約があって使えない名前

次の名前はMS-DOSにとって特別な意味を持っています。あなたがつくったデータなどにファイル名を付けるとき、これらの名前を使わないようにしてください。

AUX、AUX1、AUX2、CON、PRN、NUL、CLOCK

その他、次の名前もシステムにかかわる特別なファイル名ですので、一般のファイルには使わないでください。

IO.SYS
MSDOS.SYS
COMMAND.COM
CONFIG.SYS
AUTOEXEC.BAT

ただし、上の5つの名前は拡張子を変えれば使えます。たとえば"COMMAND.DOC"というファイル名は使ってもかまいません。

ファイルのコピー

資料を配布するとき、予備をつくっておくときなどは書類をコピーしますね。MS-DOSのファイルもコピーすることができます。

●同じ名前でコピーする

ドライブAにある"README2.DOC"ファイルを、ドライブBにコピーしてみましょう。

ドライブBがフロッピィディスクドライブの場合は、初期化したフロッピィディスクをドライブBにセットしておいてください。

①ファイルリストの画面にします。
画面の切り替え方法は、「第4章　ファイルを探すテクニック」の「ファイルを管理する――ファイルリスト」を参照してください。

②ドライブAを選択します。

[←][→]キーで「A」を反転させます。または[CTRL]+[A]キーを押します。
他のウィンドウが操作対象になっているときは、[TAB]キーを何度か押してドライブ選択ウィンドウを操作対象にしてからドライブを選択します。

ドライブAのアイコンをクリックします。

③DOSシェルを固定ディスクから起動している場合は、ルートディレクトリを選択します。

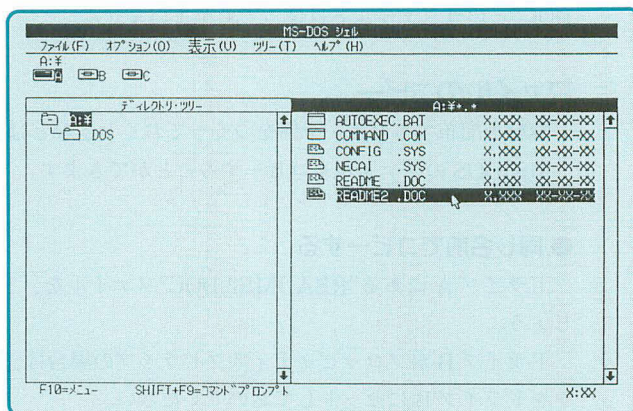
[TAB]キーを押して「ディレクトリ・ツリー」ウィンドウを操作対象にし、[↑][↓]キーで"A：¥"を反転させます。

"A：¥"をクリックします。

CHAPTER 4

④"README2.DOC"ファイルを選択します。
ファイルがたくさんある場合は、ファイル表示ウィンドウをスクロールさせて"README2.DOC"ファイルを表示させます。

TAB キーを押してファイル表示ウィンドウを操作対象にし、↑ ↓ キーで「README2.DOC」を反転させます。R キーを押すと、"R"で始まるファイル名の最初のファイルを選択することができます。

"README2.DOC"をクリックします。

選択したファイルは、反転表示になっている。

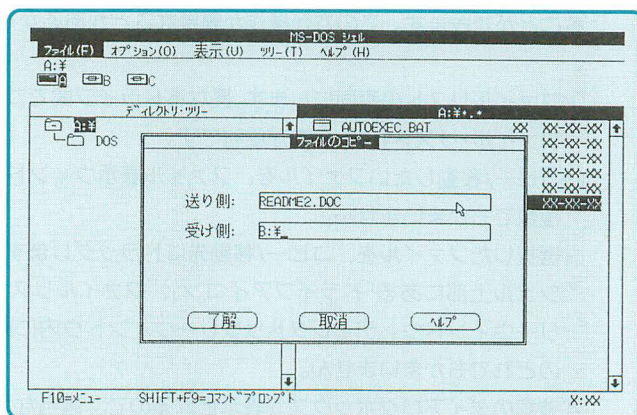
⑤メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f·10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

⑥プルダウンメニューから「コピー」を選択します。
ダイアログボックスが表示されます。

CHAPTER 4

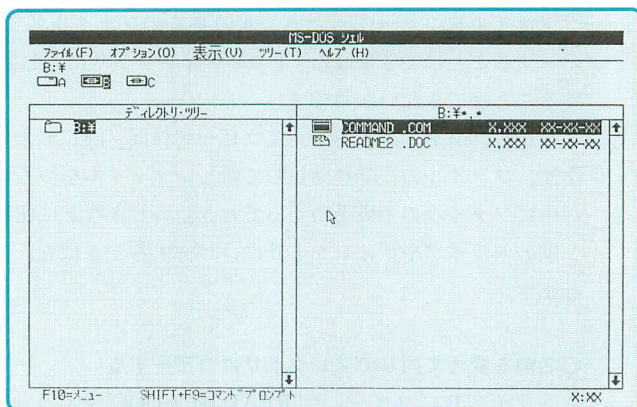
⑦"B：¥"と入力します。
"B：¥"はドライブＢのルートディレクトリという意味です。

「受け側」欄にコピー先を入力する。

⑧⏎キーを押すか、または「了解」をクリックします。

以上でコピーの操作は終わりです。コピーできたかどうか確認してみましょう。

・ドライブＢを選択します。

TAB キーを押してドライブ選択ウィンドウを操作対象にし、← → キーで「B」を反転させます。または CTRL ＋ B キーを押します。

ドライブＢのアイコンをクリックします。

ファイル表示ウィンドウに"README2.DOC"がある。

・マウス操作でコピーする

DOSシェル上では、ファイルやディレクトリをマウス操作だけでコピー/移動することができます。この方が操作が簡単なことがあるかもしれません。

①ファイルリストの画面にします。異なるドライブ間でコピー/移動したい場合は、[2ファイル・リスト]にした方が便利です。
②コピー/移動したいファイルを、ファイル表示ウィンドウに表示させて選択します。複数でもかまいません。
③選択したファイルを、コピー/移動先にドラッグします。コピー/移動先は、DOSシェル上部にある「ドライブアイコン」、ファイルリストの左側の「ディレクトリツリーウィンドウ」、ディレクトリツリーウィンドウ内にある「ディレクトリアイコン」のどれでもかまいません。
④確認のダイアログボックスが表示されるので、適当なボタンを選択します。

コピーも移動も上記の同じ操作でできますが、コピーになるか移動になるかは、コピー/移動元とコピー/移動先のドライブが同じかどうか、同時にどんなキーを押しているかで決まります。次の表を参照してください。

	コピー／移動元が同じドライブ	コピー／移動先が異なるドライブ
コピー	CTRL キーを押しながらドラッグ	ドラッグだけ
移　動	ドラッグだけ	GRPH キーを押しながらドラッグ

● 名前を変えてコピーする

ファイルをコピーするとき、元のままのファイル名で同じディレクトリの中にコピーすることはできません。１つのディレクトリに同じ名前のファイルを２つ以上つくることはできないからです。

しかし、ファイル名を変えてコピーすれば、同じディレクトリの中にもコピーできます。ファイルの一部を修正して新しいファイルをつくるときや、同じディレクトリの中にファイルの予備をつくっておきたいときなどに便利です。

別のドライブやディレクトリにコピーするときにも、ファイル名を変えることはできます。

○名前を変えて同じディレクトリにコピーする

ドライブＢにコピーした〝README2.DOC〟をもう一度コピーしてみましょう。こんどは〝TEST.DOC〟と名前を変えて、同じドライブＢのルートディレクトリにコピーします。

①ドライブBを選択します。

TAB キーを何度か押してドライブ選択ウィンドウを操作対象にし、← → キーで「B」を反転させます。または CTRL ＋ B キーを押します。

ドライブBのアイコンをクリックします。

②“README2.DOC”ファイルを選択します。

TAB キーを2回押してファイル表示ウィンドウを操作対象にし、↑ ↓ キーで“README2.DOC”を反転させます。

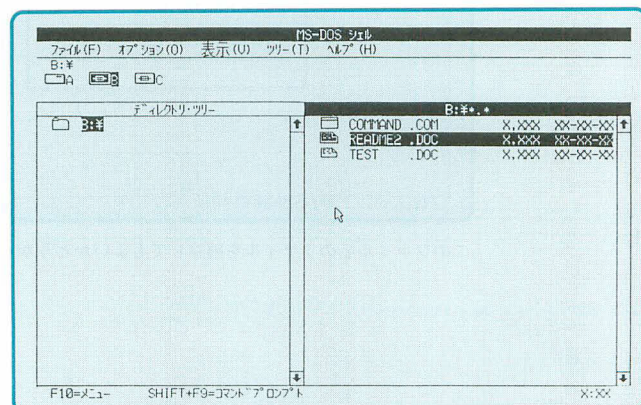
“README2.DOC”をクリックします。

③メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

④プルダウンメニューから「コピー」を選択します。
ダイアログボックスが表示されます。
⑤“B：¥TEST.DOC”と入力します。
⑥ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。

ファイル表示ウィンドウに新しく「TEST.DOC」が表示されます。

コピーされたファイルも、ファイル名のABC順に並べ替えられて表示されている。

〝README2.DOC〞ファイルと〝TEST.DOC〞ファイルは、名前はちがっても中身はまったく同じです。ファイルの大きさや日付を見てください。

ファイルの削除

ディスクの容量には限りがあります。ほうっておくとディスクの中がファイルでいっぱいになってしまいます。いらなくなったファイルは削除しましょう。

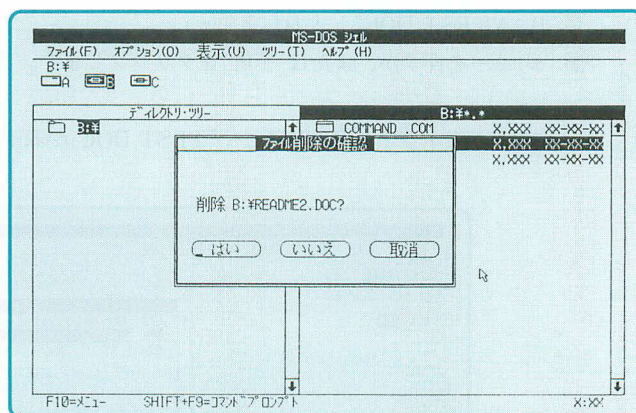
ドライブ B にコピーした方の〝README2.DOC〞を削除してみます。

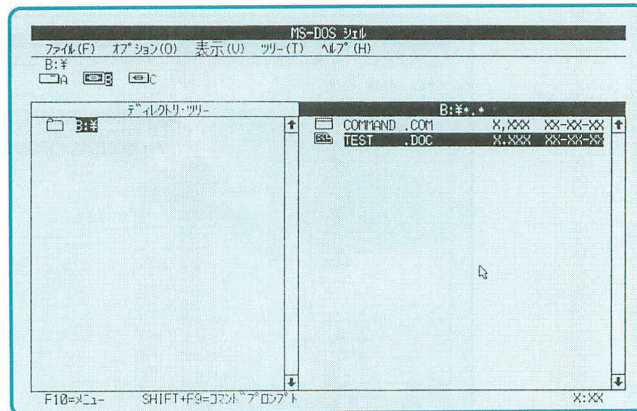
ドライブ A にある元の〝README2.DOC〞は必要なファイルですから、削除しないようご注意ください。必ずコピーした方のファイルを削除してください。

①ドライブ B の〝README2.DOC〞ファイルを選択します。
②メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

③プルダウンメニューから「削除」を選択します。または DEL キーを押します。
ダイアログボックスが表示されます。

このファイル名のファイルを削除してもよいかどうかを確認している。

④よければ、⏎キーを押すか、または「はい」をクリックします。

〝README2.DOC〞が削除され、ファイル名がなくなっている。

ファイルの名前を変えるには

ファイルの名前を付け替えることができます。

ドライブBの〝TEST.DOC〞を〝LESSON.DOC〞に変更してみましょう。

①ドライブBの〝TEST.DOC〞ファイルを選択します。

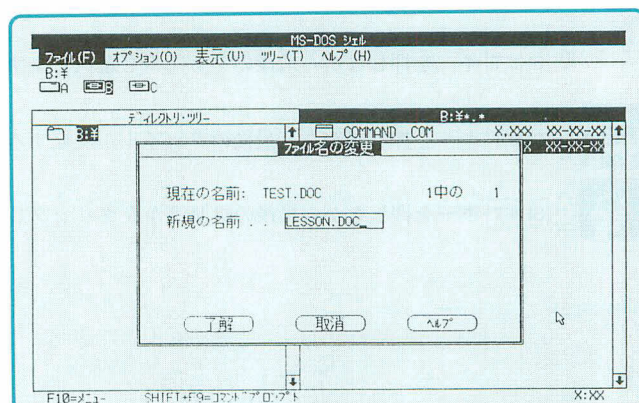
②メニューバーの「ファイル」を選択します。

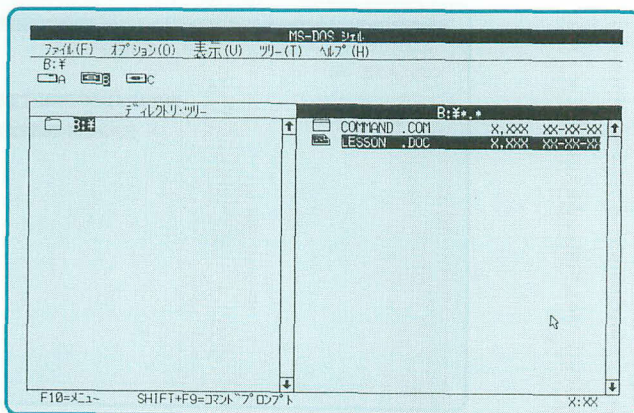
GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて⏎キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

③プルダウンメニューから「名前の変更」を選択します。

ダイアログボックスが表示されます。

④〝LESSON.DOC〞と入力します。

「新規の名前」欄に、どのように名前を変えたいかを指定する。

⑤ [⏎] キーを押すか、または「了解」をクリックします。

ファイルの名前が指定通りに変わっている。名前が変わっても、中身はまったく同じ。

ファイルをまとめてあつかう

DOS シェルの便利な点の１つは、複数のファイルをまとめて選択できることです。

● ファイルをまとめて選ぶには

複数のファイルを選ぶにも、「ここからここまで」と範囲を指定する方法、「これとこれとこれ」のように１つずつ選択する方法の２つがあります。

キーボードで DOS シェルをお使いになっている方は、前もって [TAB] キーを何度か押してファイル表示ウィンドウを操作対象にしておいてください。

○範囲の指定

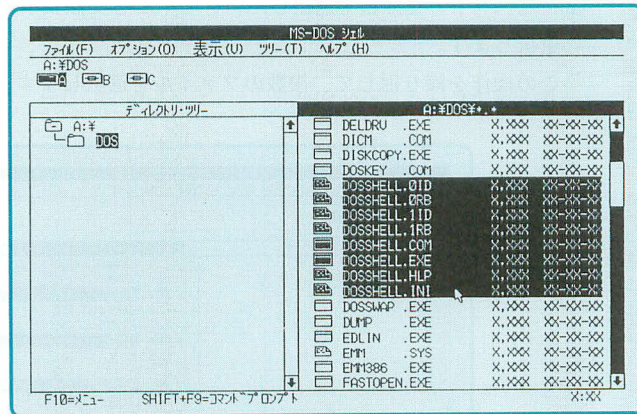
①最初のファイルを選択します。

[↑] [↓] キーで最初のファイルを反転させます。

最初のファイルをクリックします。

② [SHIFT] キーを押しながら最後のファイルを選択します。

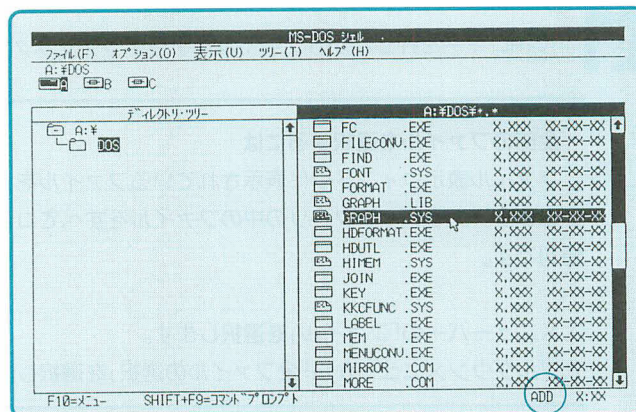
[SHIFT] キーを押しながら、最後のファイルが反転するまで [↓] キーを押します。

[SHIFT] キーを押しながら最後のファイルをクリックします。

この方法は、表示が連続しているファイル(ファイル名が似ているファイルなど)をまとめて選択するのに向いている。

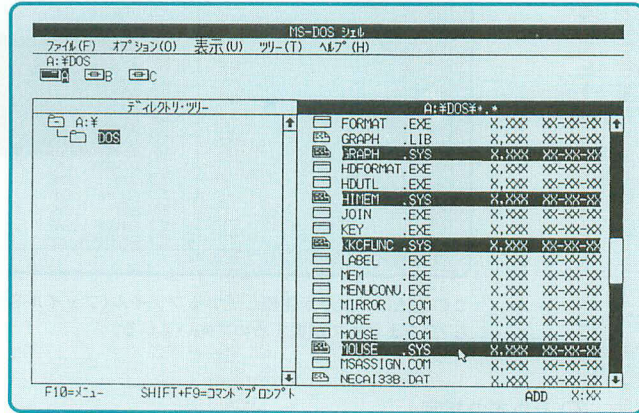
○1つずつ指定

キーボードとマウスとで操作がちがいます。

① SHIFT + f・8 キーを押します。

画面右下に「ADD」と表示されます。

「ADD」の表示は、離れた場所にある複数のファイルを選択できる状態になっていることを示している。

②［↑］［↓］キーを押して選択したいファイルを反転表示させ、スペースキーを押して選択します。

この操作を繰り返して、複数のファイルを選択します。

スペースキーを押すごとに、離れた場所にあるファイルを選択できる。

ファイルを１つしか選択できない状態に戻すには、再度［SHIFT］＋［f･8］キーを押してください。「ADD」の表示が消えます。

［CTRL］キーを押しながらファイルを１つずつクリックします。

・全部のファイルを選択するには

ファイル表示ウィンドウに表示されているファイルを、全部一度に選択することもできます。あるディレクトリの中のファイルをすべてコピーしたいときなどに使うと便利です。

①メニューバーの「ファイル」を選択します。

②プルダウンメニューから「全ファイルの選択」を選択します。

● まとめてコピー

それでは、複数のファイルの選択法を使って、ドライブＡの"README.DOC"と"README2.DOC"を２ついっぺんにドライブＢにコピーしてみます。

①ドライブＡを選択します。

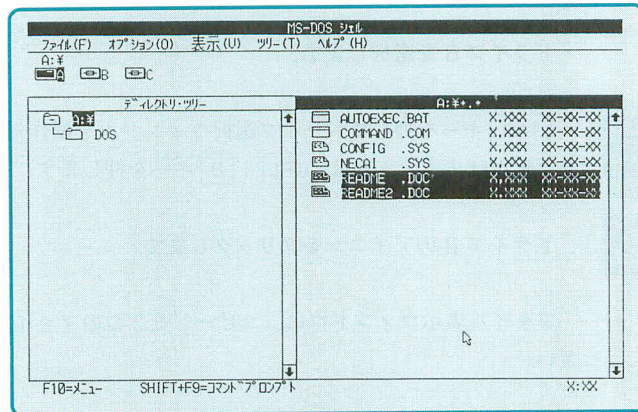
TAB キーを何度か押してドライブ選択ウィンドウを操作対象にし、← → キーで「A」を反転させます。または CTRL ＋ A キーを押します。

ドライブＡのアイコンをクリックします。

②ルートディレクトリを選択します。

TAB キーを押してディレクトリ・ツリーウィンドウを操作対象にし、↑ ↓ キーで"A：¥"を反転させます。

"A：¥"をクリックします。

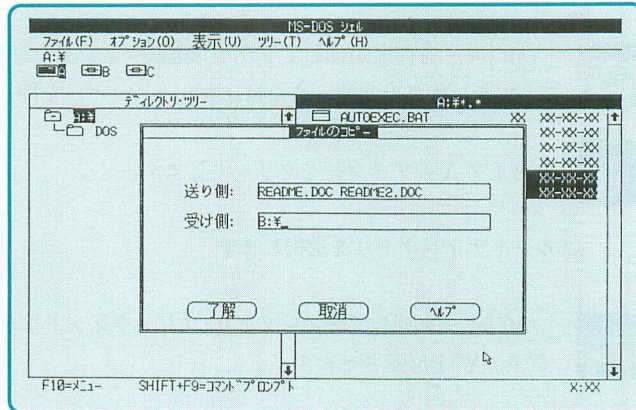
③"README.DOC"と"README2.DOC"を選択します。
範囲指定、１つずつ指定、どちらの方法を使ってもかまいません。

誤って他のファイルまで選択していないかどうかを確認すること。他のファイルまで選択していたら、ファイルの選択をやり直す。

④メニューバーの「ファイル」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ファイル」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ファイル」をクリックします。

CHAPTER 4

⑤プルダウンメニューから「コピー」を選択します。または f･8 キーを押します。
ダイアログボックスが表示されます。「送り側」の欄に、選択した２つのファイル名が表示されています。
⑥"B：¥"と入力します。

「受け側」欄に、コピー先のディレクトリ名を入力する。

⑦ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。

コピーの結果を確認してみましょう。

・ドライブＢを選択します。

TAB キーを押してドライブ選択ウィンドウを操作対象にし、← → キーで「B」を反転させます。または CTRL ＋ B キーを押します。

ドライブＢのアイコンをクリックします。

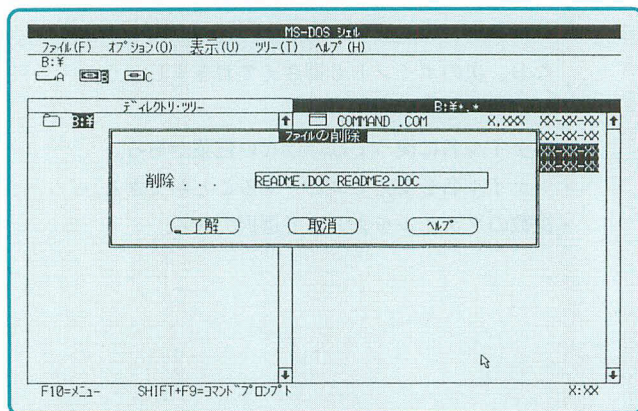
ファイル表示ウィンドウに、コピーした２つのファイルがあることを確認してください。

CHAPTER 4

● まとめて削除

最後に、ドライブBに先ほどコピーした2つのファイル"README.DOC"と"README2.DOC"を削除します。手順を簡単に示しますので、いままでにやったことを思い出しながら操作してみてください。

ドライブAにもともとある"README.DOC"と"README2.DOC"は必要なファイルですから、削除しないようご注意ください。必ずコピーした方のファイルを削除してください。

①ドライブBを選択します。
②"README.DOC"と"README2.DOC"を選択します。
③メニューバーの「ファイル」を選択します。
④プルダウンメニューから「削除」を選択します。または DEL キーを押します。
　ダイアログボックスが表示されます。

選択したファイルを削除してよいかどうかを確認している。

⑤ ⏎ キーを押すか、または「了解」をクリックします。

以上でファイルリストの紹介は終わりです。

CHAPTER 4

この章のおさらい

ここでは、ファイルのコピー、削除、名前の変更を行ってみました。基本的な操作の流れはみんな同じなので、覚えておくとよいでしょう。

(1)　目的のファイルを探して、ファイル表示ウィンドウに表示させる
(2)　ファイルを選択する
(3)　メニューバーから「ファイル」を選んで、プルダウンメニューからコピー、削除などを選択する

この章では、最初にファイル名について解説しました。次のことを確認しておきましょう。

Q1　拡張子とは？　またその役割は？

Q2　ファイル名の本体と拡張子の最大文字数は、それぞれ半角で何文字でしょう。

なお、次のポイントも押さえておきましょう。

・ファイル名に使ってはいけない言葉がある。
・ファイル名を変えてコピーすることができる。
・複数のファイルをまとめて選択できる。

Q1の答…ファイル名の、ピリオドからあとの部分が拡張子。
ファイルの種類を表わす役割がある。
Q2の答…８文字と３文字。

第５章
DOS シェルの進んだ使い方

DOS シェルには、これまで取り上げたものの他にもいろいろな機能があります。ここでは、DOS シェルの一歩進んだ使い方をいくつか紹介しましょう。いずれも知っておくと便利なものばかりです。

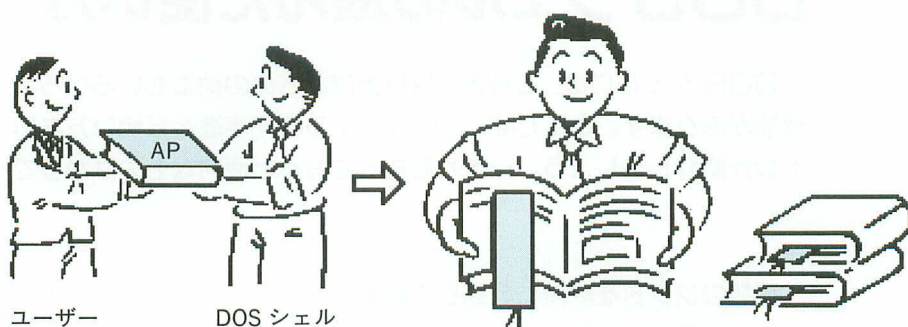
・複数のソフトを同時に起動しておく
　……タスクリスト
・DOS シェルを介さずに直接 MS-DOS を操作する
　……コマンドプロンプト
・DOS シェルの使い方についての情報を画面に表示する
　……オンラインヘルプ
・いろいろな条件を付けて DOS シェルを起動する
　……起動時オプション

CHAPTER

複数のソフトを同時に使う

仕事の内容によっては、2つ以上のソフトを同時に起動させておきたいと思うことがあります。たとえば報告書に添えるグラフをつくるときなど、ワープロソフトを起動させたまま表計算ソフトを使うことができれば便利ですね。

DOSシェルでは、複数のソフトやプログラムを同時に起動しておけます。いわば、何冊かの本やノートを開いたまま重ねておくのと同じことができますから、効率よく仕事が進められます。

ここではDOSシェルに登録されているプログラムを使って練習してみましょう。

● 複数のソフトを起動するための準備

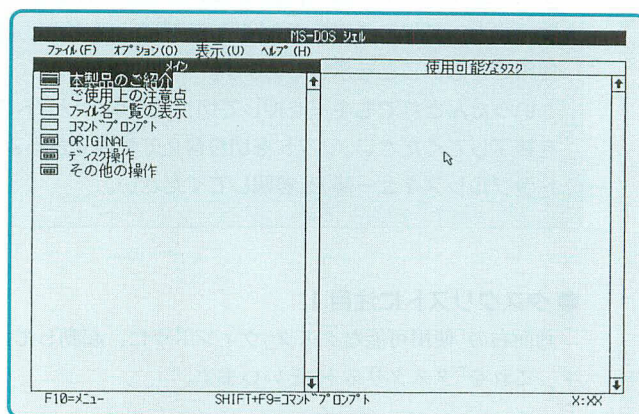
複数のソフトを同時に起動できるように、DOSシェルの準備をします。

① DOSシェルを起動して、プログラムリストのメインウィンドウを表示させます。表示されていなければ、「第3章　プログラムを起動！」で説明した方法でメインウィンドウを表示させます。

②メニューバーの「オプション」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「オプション」を反転させて ⏎ キーを押します。

「オプション」をクリックします。

③プルダウンメニューから「タスク・スワップ・オン」を選択します。
画面に新しいウィンドウが表示されました。以上で準備完了です。

「使用可能なタスク」ウィンドウが表示されれば、複数のソフトを起動する準備は完了。

● 複数のプログラムを起動してみよう

メインウィンドウに登録されているプログラムを2つ起動してみます。

①「本製品のご紹介」を起動します。

[↑]キーで「本製品のご紹介」に反転表示を合わせて、[⏎]キーを押します。

「本製品のご紹介」をダブルクリックします。

②[GRPH]＋[TAB]キーを押します。
「本製品のご紹介」を実行している途中でDOSシェルに戻ることができます。
③こんどは「ご使用上の注意点」を起動します。

[↑][↓]キーで「ご使用上の注意点」に反転表示を合わせて、[⏎]キーを押します。

「ご使用上の注意点」をダブルクリックします。

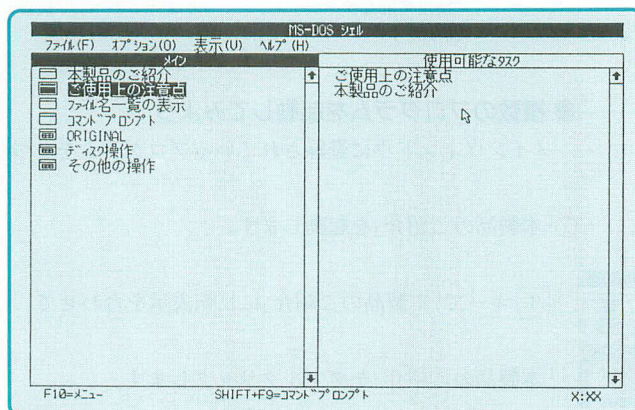
④[GRPH]＋[TAB]キーを押します。
このプログラムも起動したまま、DOSシェルの画面に戻ります。

CHAPTER 5

GRPH + TAB キーを押してソフトを切り替えようとしたとき、「MS-DOS タスクスイッチャサポート」というメッセージが表示されることがあります。これは、主としてドライブの空き容量が足りないために、複数のソフトを切り替えて使用できないことを示しています。

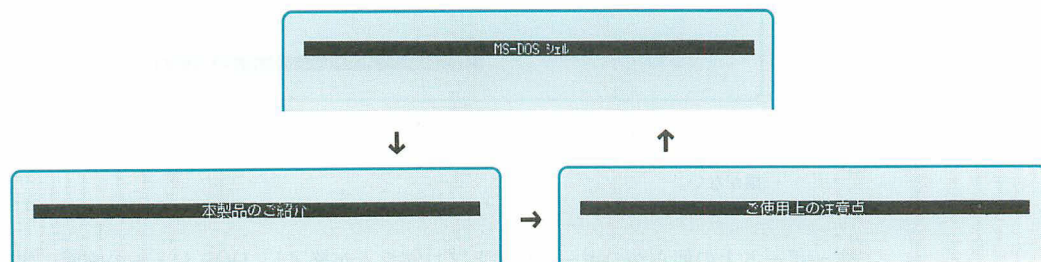
いったんどれでもキーを押して切り替え前のソフトの画面に戻り、そのソフトを終了してください。ソフトを切り替えて使用できるようにする方法は、「第 6 章 トラブルレスキュー隊」を参照してください。

● タスクリストに注目！

画面右の「使用可能なタスク」ウィンドウに、起動しているプログラムが表示されます。これを「タスクリスト」といいます。

タスクリストには、起動した複数のプログラムのタイトルが並べて表示されている。

● プログラムの切り替え

複数のプログラムを起動しておくと、画面を即座に切り替えることができます。やってみましょう。

①GRPHキーを押しながらTABキーを押します。
GRPHキーを離さないで、TABキーを押すたびにプログラムのタイトルが切り替わります。

TABキーを押すたびに、画面の上部にソフトのタイトルが表示される。

②希望のタイトルが表示されたらGRPHキーを離します。
選択したプログラムの画面になります。

○ DOSシェルへの戻り方

画面上部に「MS-DOS シェル」と表示されるまでGRPHキーを押しながらTABキーを押し、キーを離せばDOSシェルの画面に戻れます。

もっと早く戻りたいときは、次のように操作します。

プログラムの画面が表示されているときにCTRL＋ESCキーを押します。

どのプログラムからでもDOSシェルの画面に戻ることができます。

○タスクリストからの切り替え

希望のプログラムをタスクリスト上で指定して画面を切り替えることもできます。
タスクリストから「本製品のご紹介」を選んで画面を切り替えてみましょう。

①タスクリストを表示します。
プログラムの画面が表示されているときは、CTRL＋ESCキーを押してDOSシェルの画面に戻します。
②タスクリストから「本製品のご紹介」を選択します。

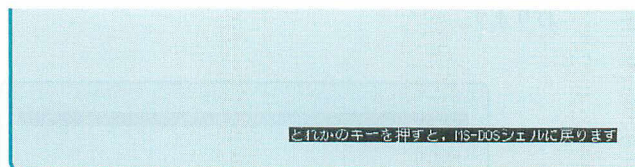
TABキーを押して「使用可能なタスク」ウィンドウを操作対象にし、↓キーで「本製品のご紹介」に反転表示を合わせて⏎キーを押します。

タスクリストの「本製品のご紹介」をダブルクリックします。

● プログラムの終了

プログラムを起動したままDOSシェルを終了させることはできません。プログラムの画面に切り替えて、まずプログラムを終了させましょう。

「本製品のご紹介」および「ご使用上の注意点」は、説明文を画面に表示するプログラムです。説明文を最後まで読むと次のように表示されます。

どれかのキーを押すと，MS-DOSシェルに戻ります

ほとんどどのキーを押してもよいが、一部のキーには反応しない（SHIFTキーなど）。一般に、スペースキーや⏎キーを押す。マウスのクリックは効果がない。

キーボード上の何らかのキーを押すとプログラムが終了し、DOSシェルの画面に戻ります。終了したプログラムのタイトルはタスクリストから消えます。

・表示されていないプログラムはディスクで待機している

DOSシェルでは複数のプログラムを起動することができますが、2つ以上の仕事を並行して進めることはできません。

複数のプログラムを起動しているとき、画面に表示されてないプログラムは、「スワップファイル」という形になってディスクに退避しています。いわば切り替えたときの状態で凍結されたまま、次に呼ばれるのを待っているわけです。

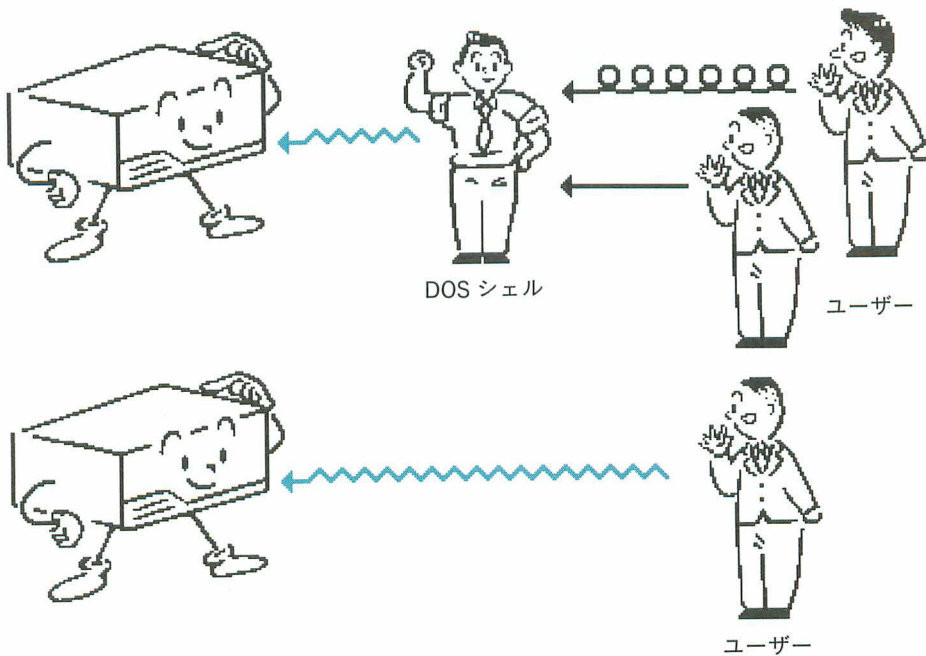
ですから、たとえば表計算ソフトで時間のかかる計算をさせながらワープロソフトで文書をつくる、といった同時進行はできません。

前の「注意」で述べた「MS-DOSタスクスイッチャサポート」でいっていたのは、このスワップファイルを作成できないという意味だったのです。

A> の世界を見てみよう

ここではDOSシェルを介さずに、MS-DOSとの直接交渉を体験してみましょう。

DOSシェルを終了するとMS-DOSの画面になって、「A>」と表示されますね。MS-DOSを直接使う場合は、この「A>」のあとにコマンドを入力します。「A>」は「コマンドを入力してください」という意味のサインで、「コマンドプロンプト」と呼ばれます。

コマンドプロンプトはDOSシェルを終了させればいつも表示されますが、DOSシェルを終了させずに一時的にMS-DOSの画面に移ることもできます。

●「A>」を表示させる

DOSシェルを終了させずにコマンドプロンプトを表示させてみましょう。

DOSシェルの画面で、SHIFT + f･9 キーを押します。

```
Command ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ 5.00
A>█
```

MS-DOSのコマンドプロンプトが「A>」になっているのは、DOSシェルを起動したときのドライブがドライブAだったから。英字"A"はドライブ名を表している。

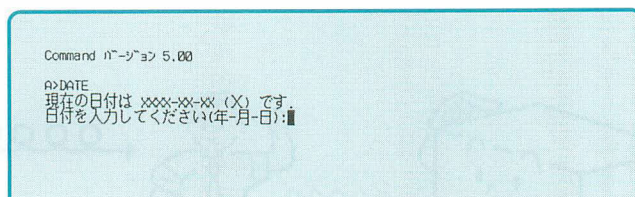
一見DOSシェルを終了させたときの画面と似ていますが、この画面はあくまで一時的なものです。

●日付と時刻をセットする

「A＞」のあとにコマンドを入力して、コンピュータに内蔵されているカレンダーと時計を正しく合わせてみましょう。日付を合わせるには「DATE」、時刻を合わせるには「TIME」というコマンドを使います。

①コマンドプロンプトの後に〝DATE〞と入力して、⏎キーを押します。
　コンピュータ内蔵のカレンダーに基づく今日の日付が表示されます。

```
Command ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ 5.00

A>DATE
現在の日付は XXXX-XX-XX (X) です.
日付を入力してください(年-月-日):█
```

DATEコマンドは、コンピュータ内部のカレンダーの日付を表示し、ちがっていれば新しい日付に設定し直すためのコマンド。

②日付を合わせます。
　日付が正しい場合はそのまま⏎キーを押します。
　日付がちがっている場合は、正しい日付を入力して⏎キーを押します。

　〈入力例〉1991-8-15
　　　　　　　　↑ ↑
　　　　　年・月・日をハイフンで区切って入力します。

③再びコマンドプロンプトが表示されたら、こんどは「TIME」と入力して⏎キーを押します。
　コンピュータ内蔵の時計に基づく現在時刻が表示されます。

```
A>TIME
現在時刻は  XX:XX:XX.00 です.
時刻を入力してください:█
```

TIMEコマンドは、コンピュータ内部の時計の時刻を表示し、ちがっていれば新しい時刻に設定し直すためのコマンド。

④時刻を合わせます。
　時刻が正しい場合はそのまま⏎キーを押します。
　時刻がちがっている場合は、正しい時刻を入力して⏎キーを押します。

　〈入力例〉9：45：30.00

　秒や分を省略することもできます。秒の小数点以下はいつもゼロで、指定できません。

● プログラムを起動する

続いて、プログラムリストの練習に使ったCHKDSKコマンドをコマンドプロンプトから起動してみましょう。

〝CHKDSK〞と入力して[⏎]キーを押します。

```
A>CHKDSK
ボリュームシリアル番号は XXXX-XXXX

 XXXXXXXX バイト : 全ディスク容量
   XXXXXX バイト : X 個の隠しファイル
     XXXX バイト : X 個のディレクトリ
  XXXXXXX バイト : XX 個のユーザーファイル
 XXXXXXXX バイト : 使用可能ディスク容量

     XXXX バイト : クラスタサイズ
    XXXXX 個     : 全クラスタ
    XXXXX 個     : 使用可能クラスタ

   XXXXXX バイト : 全メモリ
   XXXXXX バイト : 使用可能メモリ
```

CHKDSKコマンドは、指定したドライブの中の状況と、コンピュータのメモリの状態を表示するコマンド。

MS-DOSのコマンドは、すべてこのようにコマンドプロンプトから起動して使うことができます。またワープロなどの市販ソフトも同じ方法で起動できます。

● コマンドプロンプトからDOSシェルに戻るには

DOSシェルの画面に戻りましょう。

〝EXIT〞と入力して[⏎]キーを押します。

```
A>EXIT█
```

これで[⏎]キーを押すと、すぐにDOSシェルの画面に戻る。「どれかのキーを押すと，MS-DOSシェルに戻ります」のメッセージは表示されない。

CHAPTER 5

オンラインヘルプ――使い方がわからなくなったときに

DOS シェルを使っていてわからないことがあったとき、説明を画面に表示させることができます。この機能を「オンラインヘルプ」といいます。

オンラインヘルプを使えば、席を離れることなく必要な情報が得られます。現在使っているメニューについて調べることもできますし、DOS シェルを使い始める前にオンラインヘルプを一通り読んでみるのもよいでしょう。「画面の中のマニュアル」として活用してください。

● ヘルプメニューを使う

メニューバーの「ヘルプ」を使うと、DOS シェルの操作全般に渡った説明を見ることができます。

最初は項目の一覧が表示され、知りたい項目を選ぶとさらに詳しい説明が表示されます。

○索引から探す

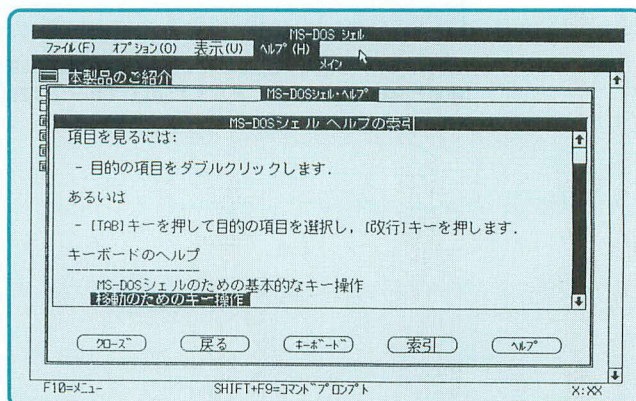
「ヘルプ」のプルダウンメニューの中にある「索引」は、オンラインヘルプ全体の目次のようなものです。

DOS シェルの概要説明を索引から探してみましょう。

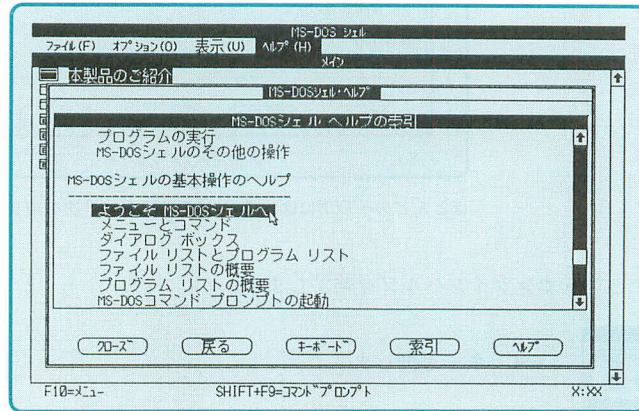
①メニューバーの「ヘルプ」を選択します。

GRPH キーまたは f･10 キーを押してから、← → キーで「ヘルプ」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ヘルプ」をクリックします。

②プルダウンメニューから「索引」を選択します。
オンラインヘルプの索引が表示されます。

「索引」コマンドを実行すると、DOS シェルの全般にわたるヘルプの索引が表示される。

通常の文字で書かれているのが説明文です。薄い字で表示(または反転表示)されているのは、別にまた説明が用意されている項目名です。項目を選ぶと、さらに詳しい説明が表示されます。

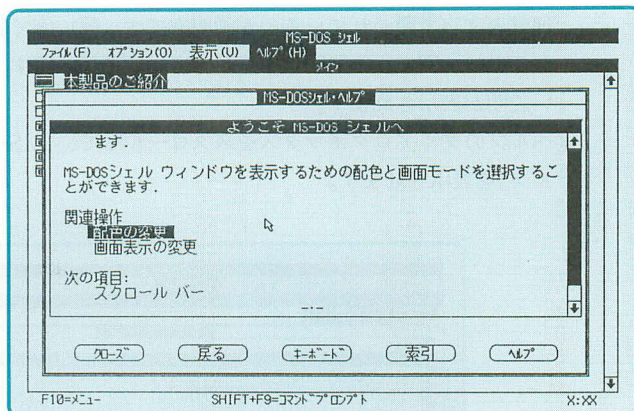
③ヘルプのダイアログボックスをスクロールして、「MS-DOSシェルの基本操作のヘルプ」を表示させます。

ヘルプの内容は、ほとんどの場合このようにいくつかのセクションに分けられている。

④この中から、「ようこそMS-DOSシェルへ」を選択します。

TAB キーを何度か押して選択する項目に反転表示(または四角の囲み)を合わせ、⏎キーを押します。

選択する項目をダブルクリックします。

DOSシェルの概要説明が表示されます。

読み進んでいくと、説明の最後に白字(または反転表示)でまた別の項目名がいくつか表示されています。「関連操作」の項目を選ぶと、いまヘルプで見ている操作に関連する事項の説明に飛ぶことができます。また「次の項目」の項目を選ぶと、基礎的な説明を順に読み進むことができます。

ほとんどのヘルプには、最後に「関連項目」や「次の項目」がある。

⑤オンラインヘルプを終了します。

ESC キーを押します。

「クローズ」をクリックします。

● コマンドのヘルプから探す

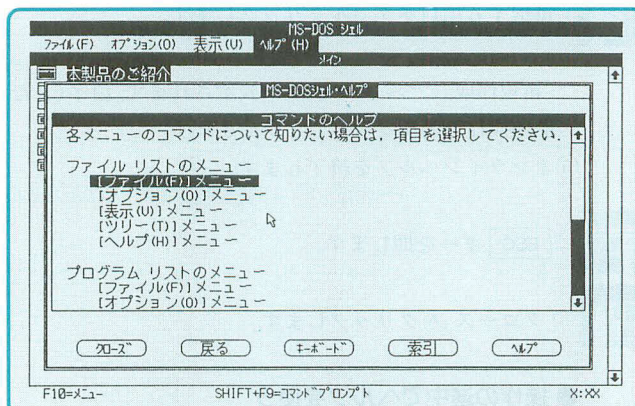
「ヘルプ」のプルダウンメニューの中にある「コマンド」には、DOSシェルの全メニューについての説明がまとめられています。

例として、プログラムの登録に使われる「新規作成」の説明を探してみましょう。

①メニューバーの「ヘルプ」を選択します。

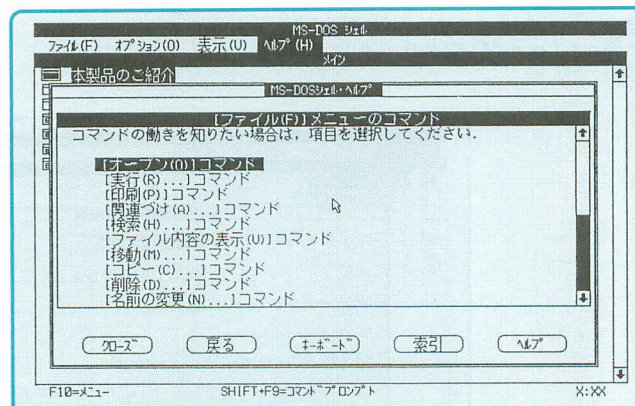
GRPH キーまたは f·10 キーを押してから、← → キーで「ヘルプ」を反転させて ⏎ キーを押します。

「ヘルプ」をクリックします。

②プルダウンメニューから「コマンド」を選択します。
索引からでも探せますが、メニューの各コマンド説明は「コマンド」の方が早く探せます。

「コマンドのヘルプ」には、DOSシェルの各メニューの全コマンドに関するヘルプが収められている。

③「ファイルリストのメニュー」の下の「[ファイル](F)メニュー」を選択します。

TAB キーを何度か押して選択する項目に反転表示(または四角の囲み)を合わせ、⏎キーを押します。

選択する項目をダブルクリックします。

まちがって他のメニューを選んでしまったときは、「戻る」ボタンをクリックすると前の画面に戻ることができる。

④「[新規作成...]コマンド」を選択します。

TAB キーを何度か押して項目に反転表示を合わせ、⏎ キーを押します。

選択する項目をダブルクリックします。

「新規作成」についての説明が表示されます。白字(または反転表示)の項目を選ぶと、関連操作の説明を見ることができます。

⑤オンラインヘルプを終了します。

ESC キーを押します。

「クローズ」をクリックします。

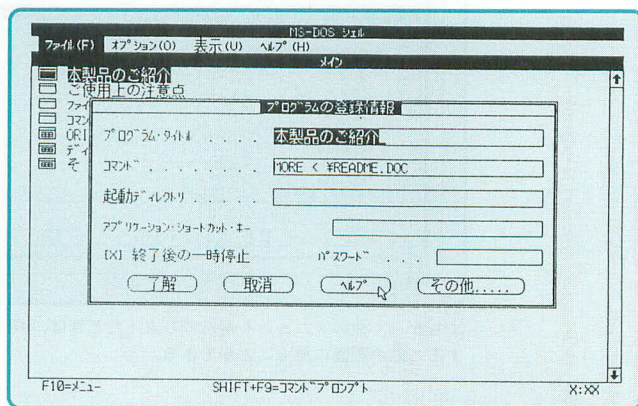
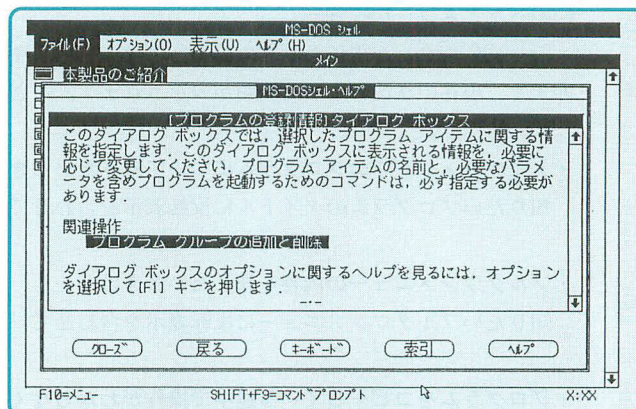
● 操作の途中でヘルプを使う

オンラインヘルプは、メニューバーを使わなくても呼び出すことができます。ここでは、DOSシェルを使っている途中で使い方がわからなくなったときの操作を紹介しましょう。

○ダイアログボックスから呼び出す

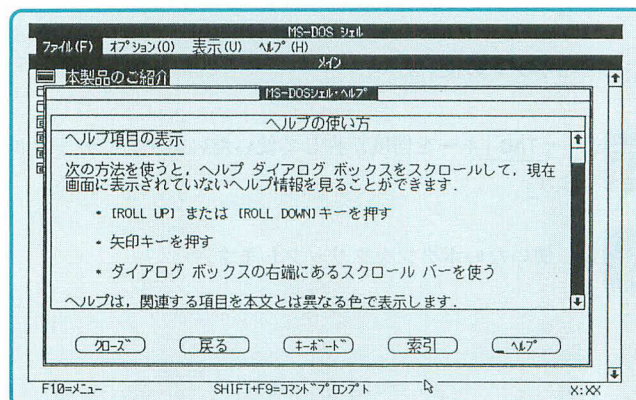
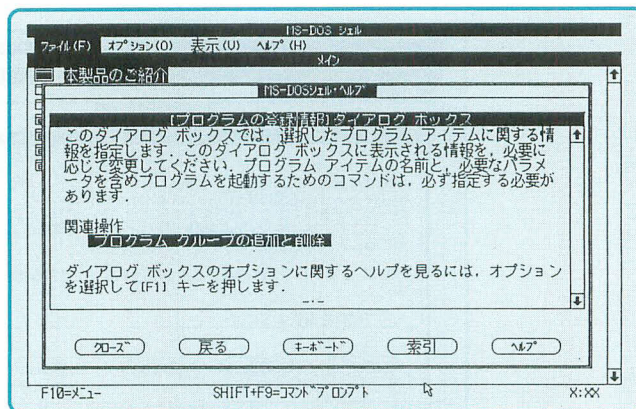
ダイアログボックスに「ヘルプ」ボタンが付いていれば、現在選んでいる機能についての説明を呼び出すことができます。

TAB キーを何度か押して「ヘルプ」ボタンにカーソルを表示させ、⏎ キーを押します。

「ヘルプ」をクリックします。

ダイアログボックスのメッセージだけではよくわからないときには、ヘルプを表示させると便利。

説明を読み終えたらオンラインヘルプを終了します。元の画面に戻ります。

○ヘルプのヘルプ

オンラインヘルプの表示画面の右下にも「ヘルプ」ボタンが付いています。これを選ぶと、オンラインヘルプそのものの使い方についての説明が表示されます。

ヘルプの表示画面には必ず「ヘルプ」ボタンがあるので、ヘルプの使い方はいつでも見ることができる。

CHAPTER 5

○困ったときは f･1 キー

「ヘルプ」ボタンが表示されていないときは、 f･1 キーを押します。 f･1 キーを押すと、現在の状況に応じた説明が表示されます。たとえば次のように使います。

・メインウィンドウのプログラムについて知りたいときは……

知りたいプログラムのタイトルに反転表示を合わせて f･1 キーを押します。

・プルダウンメニューの内容を知りたいときは……

知りたいプルダウンメニューに反転表示を合わせて f･1 キーを押します。

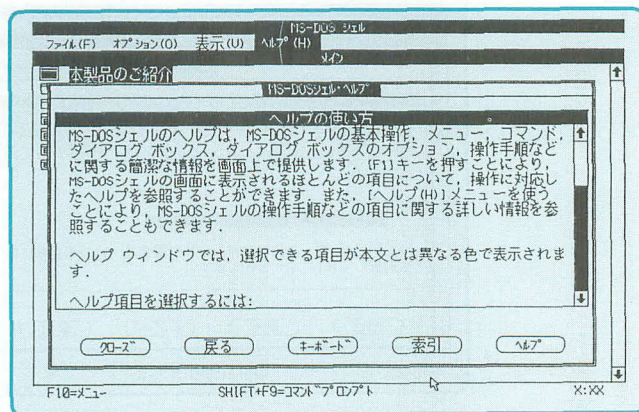
・プログラムをコピーしている途中で操作がわからなくなったら……

その場で f･1 キーを押します。そのとき行っている作業についての詳細が表示されます。

・ダイアログボックスの設定項目がわからないときは……

設定項目にカーソルを移動して f･1 キーを押します。

● オンラインヘルプのボタン

オンラインヘルプ使用中は、いつでも下の5つのボタンを使うことができます。

○ボタンの使い方

TAB キーを何度か押して使いたいボタンにカーソルを表示させ、⏎ キーを押します。

使いたいボタンをクリックします。

CHAPTER 5

各ボタンの用途は次の通りです。

クローズ ………… オンラインヘルプを終了します。
戻る ……………… 1つ前に表示していた説明に戻ります。
キーボード ……… キー操作の説明に飛びます。
索引 ……………… オンラインヘルプの索引に飛びます。
ヘルプ …………… オンラインヘルプの使い方を表示します。

・コマンドプロンプトからヘルプを使う

DOS シェルのオンラインヘルプとは異なりますが、コマンドプロンプトの状態でも MS-DOS のコマンドの説明を表示させることができます。この機能を使うには、コマンドのうしろに"/?"を付けます。

たとえば「TIME」コマンドの説明を見たいときは、コマンドプロンプトの状態で

TIME /? ⏎

とします。

DOS シェルの起動時オプションスイッチ

コマンドプロンプトの状態で"DOSSHELL ⏎"とキー入力すると、DOS シェルが起動します。このとき、「DOSSHELL」のあとに特定の文字列を付け加えることにより、いろいろ異なる条件で DOS シェルを起動することができます。条件を指定するために付け加える文字列のことを「起動時オプションスイッチ」といいます。

● 画面表示モードや配色を指定する

次の起動時オプションスイッチを使うと、画面表示モードや配色を指定して DOS シェルを起動することができます。

/T

テキストモードで DOS シェルを起動します。文字だけで構成された画面になるので、アイコンなどは表示されません。

/G

グラフィックモードで DOS シェルを起動します。ウィンドウの表示や色がテキストモードよりも多彩になり、アイコンも表示されます。

/B

DOS シェルをモノクロで起動します。ノート型の機種やモノクロディスプレイをお使いの場合に適した配色になります。

たとえば、モノクロのグラフィックモードで DOS シェルを起動する場合は、次のように入力して起動します。

```
DOSSHELL　/G　/B⏎
```

・DOS シェル起動後の変更

画面表示モードや配色は、DOS シェルを起動してから変更することもできます。

画面表示モードは、「オプション」のプルダウンメニューから「画面表示」を選んで変更します。また配色は、「オプション」のプルダウンメニューから「スクリーンの配色」を選んで変更します。

この章のおさらい

この章では、次のような事柄を説明しました。

- 「オプション」のプルダウンメニューから「タスク・スワップ・オン」を選ぶと、複数のプログラムを同時に起動させておけるようになる。
- コマンドプロンプトを一時的に表示させるには、SHIFT ＋ f·9 キーを押す。
- メニューの内容や操作についての説明を画面に表示させることができる（オンラインヘルプ）。
- オンラインヘルプの使い方には、メニューバーの「ヘルプ」を使う方法、操作の途中で呼び出す方法の2通りがある。
- コマンドプロンプトからDOSシェルを起動するとき、〝DOSSHELL〟と入力したあとに起動時オプションスイッチを付けると、画面表示モードや色などを指定できる。

特にオンラインヘルプは、関連事項の説明を次々に見ることができるなど、紙のマニュアルより便利なところもあります。また従来のMS-DOSの操作に慣れた方にとっては、コマンドプロンプトを表示する機能が重宝でしょう。使い方は十人十色です。環境や習熟度に応じて、DOSシェルをご活用ください。

それでは、最後のクイズです。

Q1　複数のプログラムを同時に起動しているとき、プログラムを切り替えるにはどのキーを押せばよいでしょう。また、プログラムの画面からDOSシェルに戻るにはどのキーを押せばよいでしょう。

Q2　コマンドプロンプトを一時的に表示させたとき、DOSシェルに戻るにはなんと入力すればよいでしょう。

Q3　操作の途中で次にすることがわからなくなったとき、説明を画面に表示させるにはどのキーを押せばよいでしょう。

CHAPTER 5

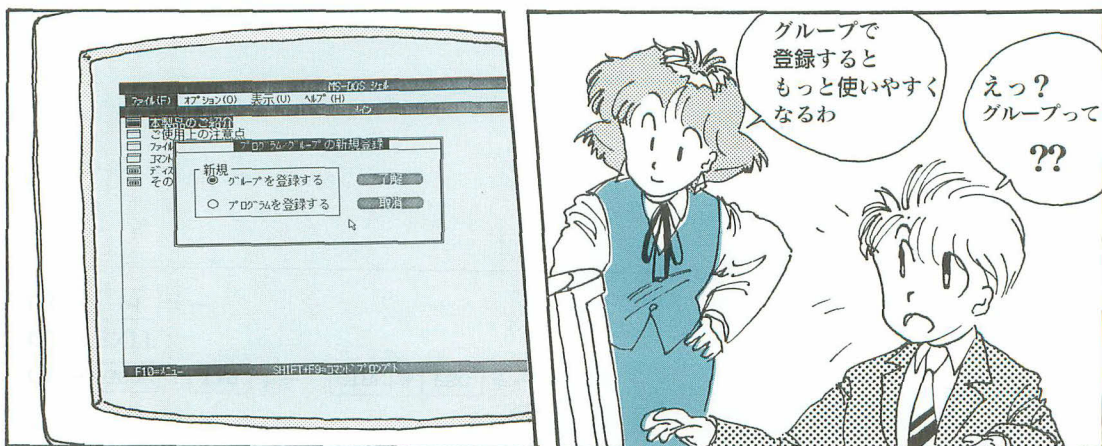
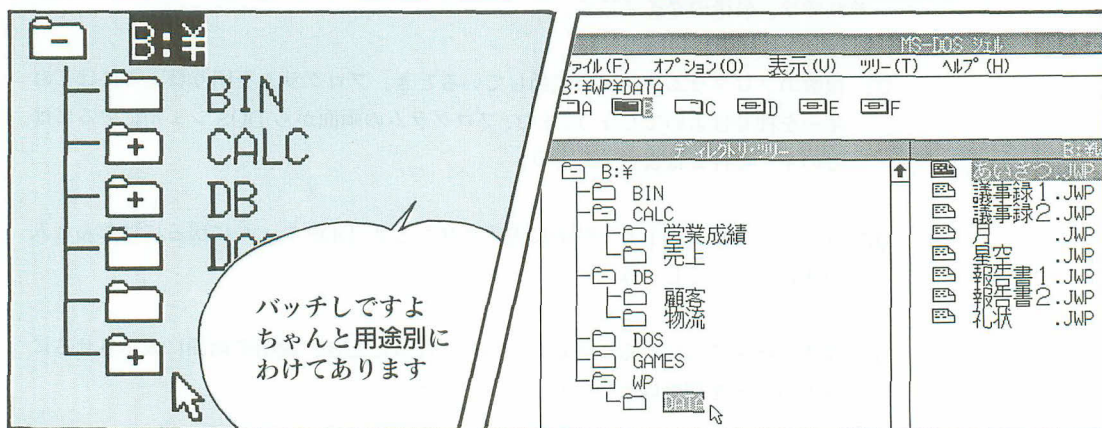
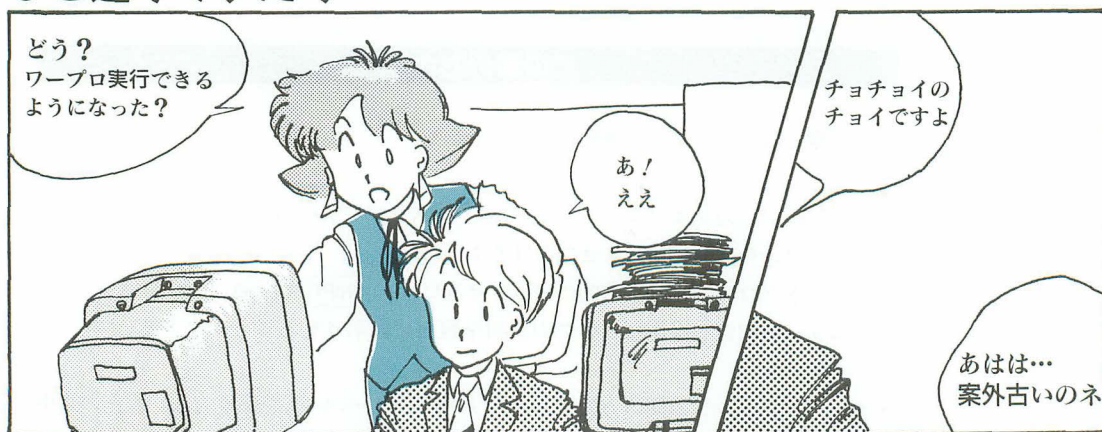
Q1 … GRPH ＋ TAB キー、CTRL ＋ ESC キー
Q2 … EXIT
Q3 … f·1 キー

ひと通りできたら…

どう？
ワープロ実行できる
ようになった？
あ！
ええ
チョチョイの
チョイですよ
あはは…
案外古いのネ

ところで
ディレクトリの
使い方は覚えた？

B:¥
BIN
CALC
DB
バッチしですよ
ちゃんと用途別に
わけてあります
MS-DOS シェル
ファイル(F)　オプション(O)　表示(V)　ツリー(T)　ヘルプ(H)
B:¥WP¥DATA
ディレクトリ・ツリー
B:¥
BIN
CALC
営業成績
売上
DB
顧客
物流
DOS
GAMES
WP
DATA
あいさつ .JWP
議事録1.JWP
議事録2.JWP
月 .JWP
星空 .JWP
報告書1.JWP
報告書2.JWP
礼状 .JWP

本製品のご紹介
ご使用上の注意点
プログラム・グループの新規登録
新規
グループを登録する
プログラムを登録する
了解
取消
F10=メニュー
グループで
登録すると
もっと使いやすく
なるわ
えっ？
グループって
??

あ！もしかして
マニュアルちゃんと
読んでないでしょ！！

あはは

オンラインヘルプ
だけじゃ
わからないことも
書いてあるんだから…

ほら……

MS-DOS

ちゃんと読むと
MS-DOSがもっともっと
便利に使えるのに…

第6章
トラブルレスキュー隊

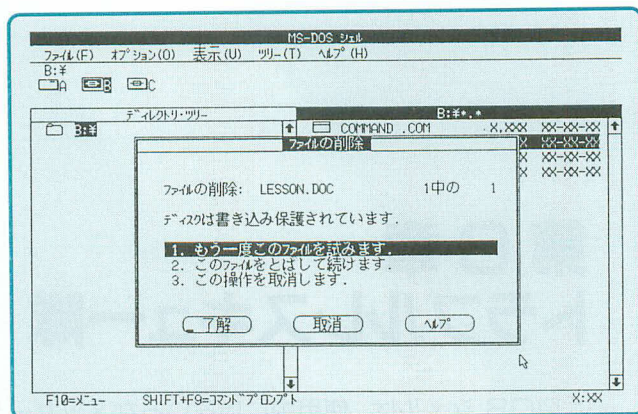
DOSシェルは、使用中にいろいろなメッセージを表示します。多くは操作に対する確認ですが、中には処理が失敗したことを知らせたり、次の操作をいくつかの選択肢から選ばせたりすることもあります。

ここでは、DOSシェルを操作中に発生するエラーメッセージと、その原因と処理法を解説します。

DOSシェルから実行したプログラム（コマンドやアプリケーションソフト）が独自にエラーメッセージを表示することもあります。このマニュアルでは取り上げていませんから、別売の『ユーザーズリファレンスマニュアル』やアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

また、MS-DOSのプロンプト状態で表示されるエラーメッセージは、『ステップアップマニュアル』の「付録A　困ったときに開くページ」で解説しています。

DOSシェルのエラーメッセージの形式

DOSシェルが表示するエラーメッセージは、次のような形式になっています。

〈エラーメッセージ本体〉

エラーメッセージの本体で、起きているエラーを簡潔に説明しています。ここに表示されるメッセージの種類と原因、対処法は「DOSシェルのエラーメッセージの種類と対策」で後述します。

〈デバイス名〉

エラーが起きた装置名です。ドライブ名、デバイスファイル名などが表示されます。

〈次の操作の選択肢〉

次にとり得る操作の選択肢が、あれば並んでいます（表示されないこともあります）。いずれかが反転表示されているので、↑ ↓ キーで反転表示を動かすか、マウスでクリックして選びます。

［了解］、［取消］、［ヘルプ］などのボタン

これらは「コマンドボタン」といい、この後の処理をどうしたらよいかを指示するためのボタンです。その前に選択肢があればまずそのどれかを選んでおいて、いずれかのボタンを選びます。それぞれのボタンの意味は次の通りです。

［了解］　表示されている警告や選択肢を読み、意味を了解してそれに同意するときに選択します。そのときに選ばれている選択肢を実行するようDOSシェルに知らせます。

［取消］　警告やエラーが表示されたので、その原因となった操作を取りやめるときに選択します。DOSシェルは指定された操作を取りやめてダイアログボックスを閉じます。

［はい］　実行したコマンドや操作を指定通りに実行します。

［いいえ］　実行したコマンドや操作を指定通りに実行しないで、ダイアログボックスを閉じます。

[クローズ]　表示されているメッセージを読んだ後にダイアログボックスを閉じます。

[ヘルプ]　その警告やエラーが意味するところがわからないときに、より詳しい情報を表示させます。

マウスでは、選びたいボタンをクリックします。キーボードでは、TAB キーを押すとボタン間をカーソルが移動しますから、希望のボタンにカーソルが移ったところで ⏎ キー(またはスペースキー)を押します。また、カーソルがどの位置にあっても ESC キーを押すと[取消]ボタンを選ぶことができます。

空きメモリを増やす方法

メモリが不足したという意味のメッセージが表示されたときは、お使いのコンピュータにメモリを増設するか、そのときにメモリを使用しているプログラムなどの実行をやめてメモリを解放するか、どちらかの方法で空きメモリを増やします。

MS-DOS では、デバイスドライバを組み込んだり常駐プログラムを実行していると、そのドライバやプログラムがいくらかのメモリを消費します。また、コマンドの実行のしかたによっても消費メモリ量が異なる場合があります。

・デバイスドライバを取り外す

デバイスドライバは主に CONFIG.SYS ファイルで組み込みますが、CONFIG.SYS ファイルは MS-DOS 5.0 のインストールのときにインストールコマンドが自動作成したものです。組み込んでいるデバイスドライバのうち、あまり使用しそうもないものは取り外すとよいでしょう。CONFIG.SYS ファイルの変更には、CUSTOM コマンドや SEDIT コマンドを使います。CUSTOM コマンドについては別冊の『インストールガイド』の「第 2 章　周辺装置を買ったら」を、SEDIT コマンドについては『ステップアップマニュアル』の「第 6 章　スクリーンエディタ」を、それぞれ参照してください。

・常駐プログラムを終了する

ほとんどの常駐プログラムは、メモリから取り外して占有していたメモリを解放することができます。MS-DOS 5.0 に付属している常駐プログラム(PRINT コマンド、MOUSE コマンドなど)は、"/R"スイッチを付けて再実行するとメモリを解放します。別冊の『ステップアップマニュアル』の「第 4 章　コマンドリファレンス」や、別売の『ユーザーズリファレンスマニュアル』を参照してください。

不足ファイルがあるときは

DOSシェルで使用するファイルは、MS-DOS 5.0をインストールしたときにすべてディスク(運用フロッピィディスクや固定ディスク)にコピーされているはずです。にもかかわらずファイルが不足している旨のメッセージが表示された場合は、何らかの理由でそのファイルを削除してしまっている可能性があります。

MS-DOS 5.0をフロッピィディスクにインストールして運用している場合は、再度インストールしなおしてください。

固定ディスクにインストールしている場合は、いったんフロッピィディスクにインストールして(運用ディスクを作成して)、次の手順で固定ディスクにコピーしてください。

ここでは、MS-DOS 5.0が固定ディスクドライブAの"¥DOS"ディレクトリにインストールされ、フロッピィディスクドライブはドライブBであることを前提に説明します。もしお使いのコンピュータの状態がちがっていれば、合わせて読み替えてください。

①DOSシェルをいったん終了するか、SHIFT＋f･9キーを押して、コマンドプロンプトを表示させます。

②コピーしたいファイルがどの運用ディスクに入っているかを調べ、そのディスクをドライブBに挿入します。

③次のように入力して、ファイルをコピーします。

COPY　B：¥〈コピーしたいファイル名〉　A：¥DOS ⏎

ここで〈コピーしたいファイル名〉は、ドライブBに挿入したフロッピィディスク内の、コピーしたいファイル名です。

環境変数を設定する方法

環境変数は、MS-DOS 上で動作するさまざまなプログラムやコマンドが互いに参照しあって情報をやり取りするための変数です。たとえば DOS シェルでは、環境変数〝TEMP〞や〝TMP〞によって、タスク切り替えのときにどのディレクトリにスワップファイルを作成するかを決定します。

環境変数〝TEMP〞や〝TMP〞を設定する手順は次の通りです。

①いったん DOS シェルを終了します。

②一時ファイルを保存するディレクトリを選択します。適当なディレクトリがなければ作成します。RAM ディスクをお使いなら、なるべくそのドライブに設定するようにしてください。RAM ディスクのドライブに十分な空き容量がなければ、別のドライブを指定してください。

TEMP や TMP には、同じディレクトリを指定しても、異なるディレクトリを指定してもかまいません。

③ MS-DOS のコマンドプロンプトから、SET コマンドを使って各変数を設定します。

SET　TEMP＝ドライブ名：¥ディレクトリ名⏎

または

SET　TMP＝ドライブ名：¥ディレクトリ名⏎

MS-DOS を起動するドライブにある AUTOEXEC.BAT ファイルに上のコマンドを書いておくと、MS-DOS を起動するごとに自動的に環境変数がセットされるようになります。

なるべく両方の変数を設定してください。そうすれば、どんなプログラムを使用する場合にも、変数を設定し直す必要がありません。

DOS シェルから実行したプログラム（コマンドやアプリケーションソフト）が独自にエラーメッセージを表示することもあります。このマニュアルでは取り上げていませんから、別売の『ユーザーズリファレンスマニュアル』やアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

また、MS-DOS のプロンプト状態で表示されるエラーメッセージは、『ステップアップマニュアル』の「付録 A　困ったときに開くページ」で解説しています。

DOSシェルのエラーメッセージの種類と対策

ここでは、DOSシェルが比較的よく表示するエラーメッセージを並べ、原因(▼印)と対策(▽印)を説明します。

command.comがロードできません(またはdosswap.exe)，もう一度(y/n)?

▼挿入されているシステムディスクに、COMMAND.COMファイルがありません。
あっても、CONFIG.SYSファイル中のSHELLコマンドで指定したパス位置と、実際にCOMMAND.COMファイルの存在しているディレクトリ位置がちがっています。
または、DOSSHELL.EXEと同じディレクトリに"DOSSWAP.EXE"がありません。

▽MS-DOS 5.0をフロッピィディスクで運用している場合は、起動ドライブに「運用ディスク #1」を入れて Y キーを押します。
固定ディスクでMS-DOS　5.0を運用している場合は、CONFIG.SYSファイルのSHELLコマンドを見て、指定されているパスの位置が、実際にCOMMAND.COMファイルの存在しているディレクトリと合っているかどうかを確認します。ちがっていれば、CONFIG.SYSファイルを修正するか、SHELLコマンドで指定したパス位置のディレクトリにCOMMAND.COMファイルをコピーします。
DOSSWAP.EXEファイルがないのが原因なら、DOSSHELL.EXEと同じディレクトリにコピーします。

dosshell実行のための空きメモリがありません.

▼DOSシェルを実行するときに空きメモリの量が足りません。

▽CONFIG.SYSファイル内から不要なデバイスドライバを削除したり、当面使わないデバイスドライバや常駐プログラムを解放して空きメモリをつくってください。

DOSのバージョンが違います.

▼DOSシェルから実行したアプリケーションやコマンドが、MS-DOS 5.0で実行できないバージョンです。

▽実行しようとするコマンドやアプリケーションの対応バージョンを確認し、正しいバージョンのMS-DOSで実行し直してください。

MS-DOSシェルがロードできません，もう一度(y/n)?

▼DOSシェルから実行したコマンドやアプリケーションから再びDOSシェルに戻るとき、DOSシェルのプログラムファイルが見つかりません。

▽フロッピィディスクでMS-DOS 5.0を運用している場合は、コマンドやアプリケーションの実行中に「運用ディスク #2」がドライブから抜かれていないかどうかを確認してください。抜かれていたら挿入して、 Y キーを押してください。
固定ディスクでMS-DOS 5.0を運用している場合は、DOSシェルのプログラムファイルが入っているディレクトリがコマンド検索パスに含まれているかどうかを確認してください。

MS-DOS タスクスイッチャサポート

▼ DOS シェル上でタスクを切り替えたときに、スワップファイルが作成できません。

▽ DOS シェルでは、タスクを切り替える際にディスク上にスワップファイルを作成します。スワップファイルには、実行中のプログラムのさまざまな情報が入れてあり、これをメモリ内に入れたり出したりしながらタスクを切り替えます。

DOS シェルは、環境変数〝TEMP〞または〝TMP〞で設定したドライブ/ディレクトリにスワップファイルを作成します。〝一時ファイルがディスクに作成できません.〞の項を参照して、スワップファイルを作成できるような空き容量があるドライブを設定してください。

アクセスが拒否されました.
アクセスは拒否されました. または, パスの指定が違います.

▼指定したファイルにアクセスできませんでした。

▽次のいずれかが原因です。

・パスの指定が正しくありません。ドライブ名、ファイル名、ディレクトリ名の指定が正しいかどうか確認してください。

・ファイルまたはディレクトリを、すでに同じディレクトリ内に存在するものと同じ名前に変更しようとしました。

・あるディレクトリ内で、すでにその中に存在するものと同じ名前で、新しいディレクトリを作成しようとしました。

・リードオンリー属性が設定されているファイルを削除しようとしました。[ファイル]メニューの[属性の変更]コマンドで、そのファイルの〝読み込み専用〞属性を解除してください。ただし、リードオンリー属性が設定されている理由をよく考えてからにしてください。

・書き込み禁止のディスクを操作しようとしました。なぜ書き込み禁止になっているかを考えてから、ディスクを書き込む可能な状態にしてください。

・アクセス権を持たないファイルを使おうとしました。システム管理者に相談してください。

・長すぎるパス名でディレクトリを作成しようとしました。MS-DOS は、ドライブ名とコロン(:)を含め、半角 66 文字(全角 33 文字)以内のパス名しか認識できません。目的のディレクトリに対するパスを短くしてください。

一時ファイルがディスクに作成できません.

▼環境変数 TEMP/TMP を設定しないで、書き込めないディスクからプログラムを起動しようとしました。このため一時ファイルが作成できません。

▽ DOS シェルはプログラムを起動するとき、まず環境変数〝TEMP〞で指定されたディレクトリ、次に〝TMP〞で指定されたディレクトリを探し、どちらかが見つかればそこにスワップファイルなどの一時的なファイルを作成します。

環境変数が設定されていない場合や設定されているディレクトリが見つからない場合は、DOS シェルは、自分自身があるドライブのディレクトリを使用します。

したがって、これらの環境変数を設定しないで、ライトプロテクトされているディスクや空き容量がないディスクからプログラムを起動しようとすると、このエラー

が発生することがあります。

カレントドライブのフロッピィディスクの書き込み禁止を解除するか、空き容量があるディスクに交換するか、AUTOEXEC.BATファイルで環境変数〝TMP〞または〝TEMP〞を設定してください。

受け側ファイルに書込めません.

▼COPYコマンドなどでコピー先に指定されているファイルに書き込めません。

▽目的のディスクがドライブに挿入されているかどうか、またそのディスクが壊れていないかどうかを確認してください。

エラーです...

▼原因は特定できません。

▽同じ操作をもう一度繰り返してください。これでもうまくいかない場合は、読み込みを続けてください。

空でないディレクトリは削除できません；
最初にこのディレクトリ中から全てのファイルとサブディレクトリを削除してください.

▼ファイルやサブディレクトリを含むディレクトリを削除しようとしました。

▽削除しようとするディレクトリ内のファイルやサブディレクトリを、先に削除または移動してください。

原因不明のエラーです.

▼DOSシェルからは判断できないエラーが発生しました。

▽操作をもう一度繰り返してみてください。同じメッセージが表示されるようなら、MS-DOSシェルを終了してもう一度起動し、同じ操作を繰り返してください。

原因不明のディスクエラーです.

▼DOSシェルからは判断できないような、ディスクに関するエラーが発生しました。

▽フロッピィディスクでMS-DOS 5.0を運用している場合は、ドライブに目的のディスクを正しく挿入しているかどうか、ドライブのレバーが閉まっているかどうかをチェックしてください。

また、フロッピィディスクのタイプがドライブに適合しているかどうかもチェックしてください。たとえば、2HDのディスクを2DD専用のドライブに入れている可能性があります。

ディスクに不良セクタが含まれていることも考えられます。コマンドプロンプトでCHKDSKコマンドを実行して、ディスク上に不良セクタがないかどうか調べてください。

シークエラーです.

▼ディスクのメディアにエラーが発生しました。

▽ディスクにスキップセクタが含まれているかもしれません。コマンドプロンプトでCHKDSKコマンドを実行して調べてください。

十分なメモリがありません． 操作を完了します．

▼空きメモリの容量が不足して、これ以上の操作を続けられません。

▽不要な常駐プログラムやデバイスドライバをメモリから取り外して、メモリを解放してください。

セクタが見つかりません．

▼ MS-DOS のディスクとしては認識できません。

▽ MS-DOS のフォーマットでないディスクです。交換するか、MS-DOS の FORMAT コマンドで初期化してください。

ディスクが違います．

▼ DOS シェルが要求しているディスクとは異なるディスクが挿入されています。

▽ドライブに正しいディスクをセットしているかどうか確認してください。正しいディスクがセットされると、MS-DOS シェルは自動的に作業を継続します。

ディスクは書き込み保護されています．
ディスクの書込み禁止を解除してください．

▼使用しようとしたディスクはライトプロテクトされて(書き込み禁止になって)います。

▽この状態でデータをディスクに書き込むことはできません。ライトプロテクトされている理由を考えてから、ライトプロテクトを解除するか、ライトプロテクトされていない別のディスクを使ってください。

ディスクフルです．

▼ドライブの空き容量がなくなり、指定されたコマンドを実行できません。

▽ディスク中の不用なファイルを消去して空き容量を作るか、別のディスクを使用してください。

複数のファイルをコピーしている場合は、ディスクに収まるファイルだけを再選択すればコピーできます。

ドライブが見つかりません．

▼指定されたドライブがありません。

▽正しいドライブ名を指定しているかどうか確認してください。

ネットワークを使用している場合は、ネットワークに正しく接続されているかどうかも確認してください。

[表示形式]メニューの[最新表示]コマンドを実行すると、カレントドライブの内容を読み込み直すことができます。

ドライブの準備ができていません.

▼指定されたフロッピィディスクドライブが､読み書きできる状態になっていません。

▽次の点をチェックしてください。

・正しいフロッピィディスクがドライブに挿入されているかどうか。

・ドライブのレバーが閉まっているかどうか。

・ディスクがMS-DOSで初期化されているかどうか。

ドライブをチェックしてください.

▼指定されたディスクに何か問題があります。

▽固定ディスクに問題があることも考えられます。まず、正しく接続されているかどうかを確認してください。また、固定ディスクのマニュアルを参照して、適切な対処方法を調べてください。

ネットワークの接続をチェックしてください.

▼ネットワークとの接続に問題があります。

▽ネットワークを使用しているときは、ネットワークとの接続をチェックし、ネットワークが正常に動作しているかどうか確認してください。他のすべてのメッセージに対しては、読み込みを続けてください。

パスが無効です.

▼指定されたパス名が正しくありません。

▽パスの指定、とくにディレクトリ名やファイル名が正しいかどうかを確認してください。

パスの指定が違います.

▼ファイルやディレクトリを指定したとき、指定したパスのディレクトリやファイルがありませんでした。

▽ドライブ名、ファイル名、ディレクトリ名を正しく指定しているかどうか確認してください。パス名は全部で半角(1バイト文字)66文字､または全角(2バイト文字)33文字以内でなければなりません。

ファイルが空です.

▼空の(容量が0バイトの)ファイルを選択しました。

▽表示するために選択したファイルには、まったく情報が含まれていません。ファイル名を確認してください。

ファイルが見つかりません.

▼指定されたファイルが、指定された場所にありません。

▽正しいパスとファイル名を指定しているかどうか確認してください。

ファイルの読取りができません.
▼指定されたファイルが読めません。
▽指定したパスに目的のファイルがあるかどうか確認してください。

ファイルはすでに使用されています.
▼ネットワーク上で、ユーザーが使用しているファイルを使おうとしました。
▽このファイルを使用するには、それが使用可能になるまで待ってください。

ファイルはそれ自身にはコピーできません.
▼送り側のファイルと受け側のファイルが同じです。

▽同じ名前でファイルをコピーするには、異なるディレクトリを指定しなければなりません。同じディレクトリ内であれば、異なる名前を指定してください。

ファイルまたはドライブが見つかりません.
▼指定されたファイルやドライブが見つかりませんでした。
▽ドライブ、パス、ファイル名が正しいかどうかチェックしてください。ファイルリストを使えば、指定したドライブのディスク上に目的のファイルがあるかどうか確認できます。ファイルリストの内容を更新するには、[表示形式]メニューの[最新表示]コマンドを使います。

フォーマットをチェックしてください.
▼ディスクのフォーマットが正しくありません。
▽ディスクが壊れているか、ディスクとドライブが適合していない可能性があります。たとえば、2DD(倍密度)のディスクしか受け付けないドライブに2HD(高密度)のディスクをセットしています。

プログラムを実行するための空きメモリが不足しています.
▼指定したコマンドまたはアプリケーションの実行に必要な空きメモリ容量が不足しています。
▽メモリの増設が必要です。ただし、MS-DOSを再起動することにより、そのまま実行できることもあります。再起動してもなおこのメッセージが表示された場合は、メモリを増設してください。

フロッピーディスクをチェックしてください.
▼指定されたフロッピィディスクに何か異常があります。
▽正しいディスクがドライブに正しく挿入されているかどうか、ドライブのレバーが閉まっているかどうかを確認してください。

未確認のメディアタイプです.
▼お使いのコンピュータであつかうことができない媒体です。
▽ディスクのメディアのタイプを確認してください。

索　引

▼英数字と記号

▼あ行

▼か行

▼さ行

▼た行

▼な行

▼は行

▼ま行

▼わ行